

# UC-Draw<sup>TM</sup>ツールズ Flexible Sluiceway (柔構造樋門)

Operation Guidance 操作ガイダンス



# 本書のご使用にあたって

本操作ガイドは、主に初めて本製品を利用する方を対象に操作の流れに沿って、操作、入力、処理方法を説明したものです。

## ご利用にあたって

ご使用製品のバージョンは、製品「ヘルプ」のバージョン情報よりご確認ください。

本書は、表紙に掲載のバージョンにより、ご説明しています。

最新バージョンでない場合もございます。ご了承ください。

本製品及び本書のご使用による貴社の金銭上の損害及び逸失利益または、第三者からのいかなる請求についても、弊社は、その責任を一切負いませんので、あらかじめご了承ください。

製品のご使用については、「使用権許諾契約書」が設けられています。

※掲載されている各社名、各社製品名は一般に各社の登録商標または商標です。

# 目次

6	<b>第1章 製品概要</b>
6	1 プログラム概要
6	1-1 機能と特徴
7	1-2 形状と鉄筋
14	2 フローチャート
15	<b>第2章 操作ガイドンス</b>
15	1 基本情報入力
16	2 図面生成条件
19	3 図面作図条件
20	4 形状情報入力
20	4-1 函体
21	4-2 門柱・操作台
22	4-3 川表側胸壁・川裏側胸壁
23	4-4 川表側翼壁・川裏側翼壁
24	4-5 しゃ水壁
25	4-6 基礎
25	5 かぶり情報入力
25	5-1 函体
26	5-2 川表側端部函体
27	5-3 川裏側端部函体
27	5-4 門柱・操作台
28	5-5 川表側胸壁・川裏側胸壁
29	5-6 川表側翼壁・川裏側翼壁
29	5-7 しゃ水壁
30	6 簡易鉄筋情報入力
30	6-1 標準函体
34	6-2 川表(裏)側端部函体
36	6-3 門柱・操作台
37	6-4 川表(裏)側胸壁
39	6-5 川表(裏)側翼壁
40	6-6 しゃ水壁
41	7 詳細鉄筋情報入力
41	7-1 鉄筋生成
41	7-2 詳細鉄筋情報の確認・修正
43	8 図面生成
44	8-1 図面表示
45	8-2 図面表示
50	8-3 図面出力
52	9 3D配筋生成
53	9-1 視点位置
55	9-2 オプション
58	9-3 エクスポート
59	9-4 設定
59	9-5 開く、保存、終了

60	10 ファイル保存
62	第3章 Q&A
62	1 UC-Drawツールズ「共通」

# 第1章 製品概要

## 1 プログラム概要

### 1-1 機能と特徴

「UC-Drawツールの (Flexible Sluiceway)」は、柔構造樋門の配筋図・加工図・鉄筋表などの図面を一括自動生成するためのプログラムで、以下の特徴を備えています。

#### ◆スピーディな図面作成

形状寸法や配筋情報などを入力することにより内部的に作図データを一括生成するため、短時間に目的とする構造物の配筋図面が得られます。

#### ◆材料計算作業の解消

入力された形状情報・配筋情報と作図条件で設定された基準値やまるめ・止めに従って材料計算を行い、加工図・鉄筋表・数量表などを自動生成しますので、鉄筋の寸法・質量やコンクリート体積などの計算作業を解消します。また、必要に応じ減長計算を行ったり、変化表を生成することも行えます。

#### ◆簡易入力と詳細入力の採用

配筋に関するデータ入力には、基準ピッチや配筋方法などの少ない入力で配筋図生成が行える簡易入力と、鉄筋ごとに配置開始位置・ピッチ・ピッチ数など入力することで自由度の高い配筋図生成が行える詳細入力をサポートしています。

#### ◆細かな作図書式に対応

作図条件で寸法線や引出線・文字・表などの作図書式の細かな設定が行えます。各図形はその設定に基づいて生成されますので、きめ細かな図形生成が行えます。

#### ◆各種基準類に沿った図面作成

以下の基準類に準拠した図面作成が行えます。

- ・CAD製図基準 (案) 国土交通省 平成20年5月版
- ・CADによる図面作成要領 (案) 日本道路公団 平成13年10月版
- ・調査等業務の電子納品要領 (案) 日本道路公団 平成17年4月版

また、以下の基準に準拠した作図も行えます。

- ・土木製図基準 「平成15年小改訂版」
- ・柔構造樋門設計の手引き 平成10年11月 (財) 国土開発技術研究センター
- ・土木構造物設計マニュアル (案) -樋門編- 平成13年12月 国土交通省
- ・土木構造物設計マニュアル (案) に係わる設計・施工の手引き (案) -樋門編- 平成13年12月 国土交通省

#### ◆生成図面の確認・編集・印刷

生成した図面の確認表示や図形・寸法線・引出線などの編集 (位置調整)、プリンタ・プロッタへの印刷が行えます。

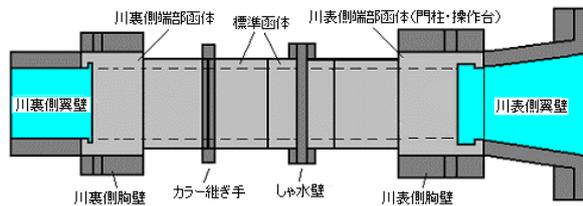
#### ◆様々な形式の図面ファイル出力に対応

弊社の製品である「UC-Draw」のオリジナル形式のファイル (PSX) だけでなく、「SXF」・「DXF」・「DWG」「JWW」・「JWC」形式のファイル出力が行えます。また、ソリッドモデルの3D出力や3D PDF出力にも対応しています。

## 1-2 形状と鉄筋

柔構造樋門の図面作成でサポートする形状および鉄筋については、以下を参照してください。

### 1) 形状



※ 端部函体及び端部函体のゲート部を設置しない形状に対応

#### ◆標準部函体

矩形RC函体 (1連/2連ボックスカルバート)

#### ◆端部函体 (川表側/川裏側)

矩形RC函体 (1連/2連ボックスカルバート : 2連の場合、端部拡幅対応可能)

#### ◆門柱/操作台

1門柱/2門柱、操作台 (ゲート吊下げ穴1個/2個可能)

#### ◆胸壁 (川表側/川裏側)

逆T型胸壁/L型胸壁 (鋼矢板によるしゃ水工設置可能)

#### ◆翼壁 (川表側/川裏側)

逆T型翼壁/U型翼壁 (L型/逆T型の翼壁先端壁の設置可能)

#### ◆しゃ水壁

逆T型・I型しゃ水壁 (鋼矢板によるしゃ水工設置可能)

#### ◆カラー継手

矩形巻き立てカラー継手

※図面作成時には上記の構造物の配筋図および構造一般図を一括して生成し、1つの図面データファイルに保存します。

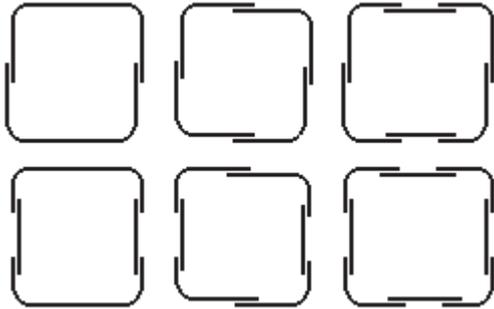
※門柱は函体に応じ1連の場合は1門柱、2連の場合は2門柱とします。

2) 作図鉄筋

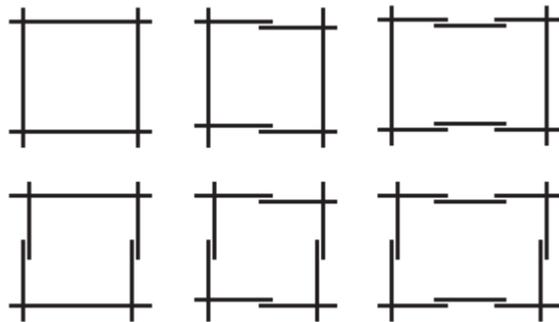
1. 函体鉄筋

◆横方向主鉄筋

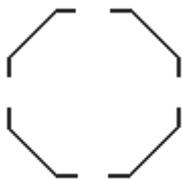
(1) 外面主鉄筋 : 継ぎ手の指定により、以下のタイプの鉄筋が配筋できます。



(2) 内面主鉄筋 : 継ぎ手の指定により、以下のタイプの鉄筋が配筋できます。



(3) ハンチ筋 : 内空の各隅にハンチに沿う鉄筋が配筋できます。



◆縦方向主鉄筋

- (1) 縦方向主鉄筋 (頂版)
- (2) 縦方向主鉄筋 (底版)
- (3) 縦方向主鉄筋 (左側壁)
- (4) 縦方向主鉄筋 (右側壁)
- (5) 縦方向主鉄筋 (中壁)

◆スターラップ : 鉄筋の先端フックは、直角・鋭角・半円の指定が行えます。

- (1) 側壁・中壁スターラップ ...形状は、「U」のみで左右の曲げ長がそれぞれ指定できます。
- (2) 頂版・底版スターラップ ...形状は、上開き筋・下開き筋・馬筋の3タイプに対応しています。

また、スターラップをかける主鉄筋の間隔数を指定できます。



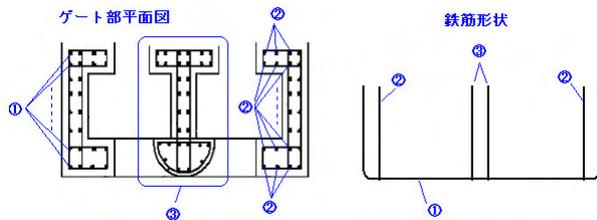
## 2. 端部函体鉄筋

◆函体部 : 端部函体の函体部には、「函体鉄筋」と同様の鉄筋の配筋が行えます。

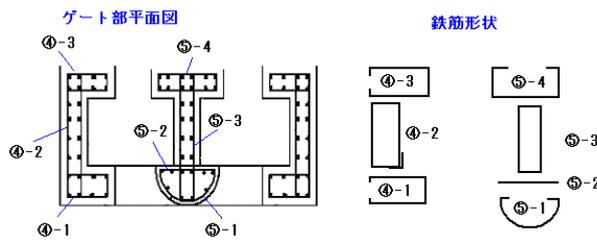
- (1) 横方向主鉄筋
- (2) 縦方向主鉄筋
- (3) スターラップ

◆ゲート部鉄筋

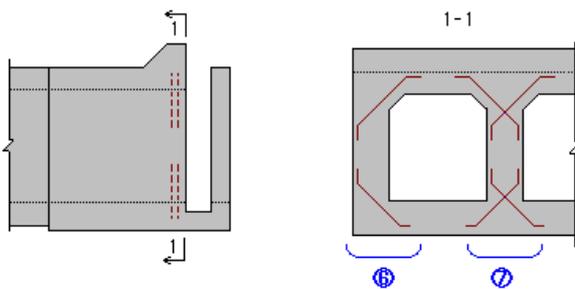
- (1) 外面鉄筋
- (2) 内面鉄筋 (側壁)
- (3) 内面鉄筋 (中壁)



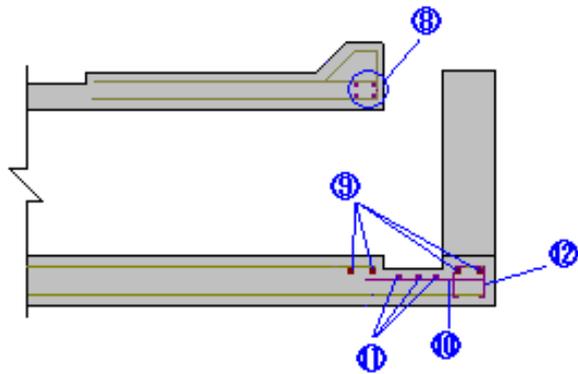
- (4) 帯鉄筋 (側壁)
- (5) 帯鉄筋 (中壁)



- (6) ハンチ筋
- (7) ハンチ筋 (中壁)

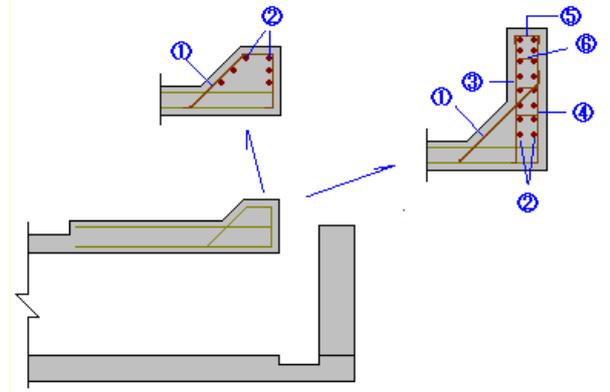


- (8) 横鉄筋（頂版）
- (9) 横鉄筋（底版）
- (10) 底版鉄筋（縦方向）
- (11) 底版鉄筋（横方向）
- (12) 底版組立筋



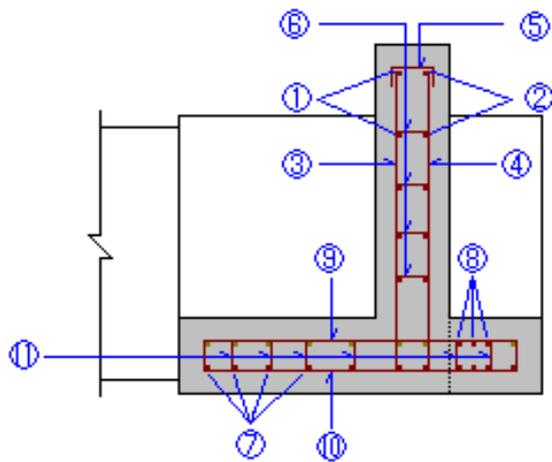
◆土留め壁部鉄筋

- (1) 土留め壁ハンチ筋
- (2) 土留め壁配力筋
- (3) 土留め壁主鉄筋（背面）
- (4) 土留め壁主鉄筋（前面）
- (5) 土留め壁天端筋
- (6) 土留め壁組立筋



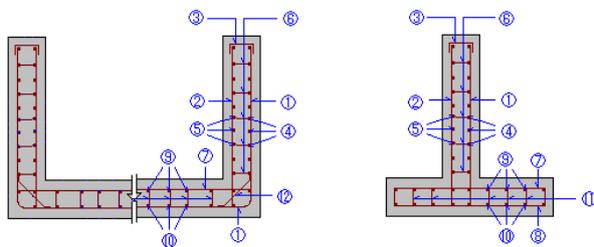
3. 胸壁鉄筋

- (1) たて壁背面主鉄筋
- (2) たて壁前面主鉄筋
- (3) たて壁背面配力筋
- (4) たて壁前面配力筋
- (5) 天端筋
- (6) 組立筋
- (7) 底版下面主鉄筋
- (8) 底版上面主鉄筋
- (9) 底版上面配力筋
- (10) 底版下面配力筋
- (11) 底版組立筋



#### 4. 翼壁鉄筋

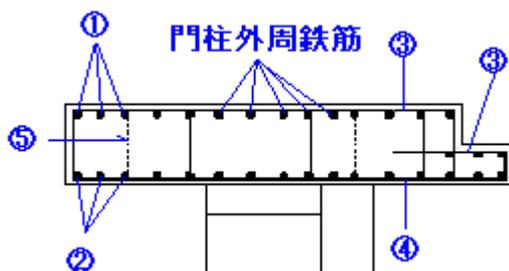
- (1) 側壁外面主鉄筋
- (2) 側壁内面主鉄筋
- (3) 側壁天端筋
- (4) 側壁外面配力筋
- (5) 側壁内面配力筋
- (6) 側壁組立筋
- (7) 底版上面主鉄筋
- (8) 底版下面主鉄筋
- (9) 底版上面配力筋
- (10) 底版下面配力筋
- (11) 底版組立筋
- (12) ハンチ筋



#### 5. 門柱・操作台鉄筋

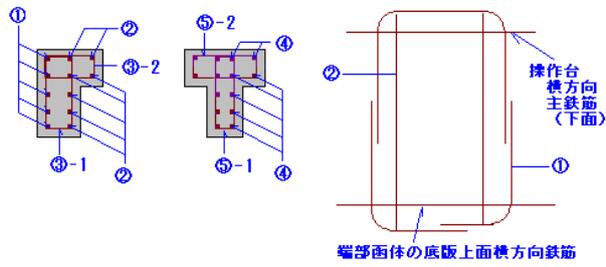
##### ◆操作台

- (1) 横方向主鉄筋（上面）
- (2) 横方向主鉄筋（下面）
- (3) 縦方向主鉄筋（上面）
- (4) 縦方向主鉄筋（下面）
- (5) 組立筋

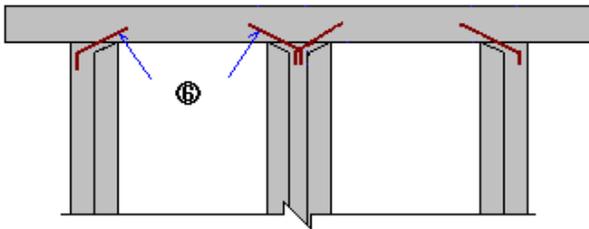


◆門柱

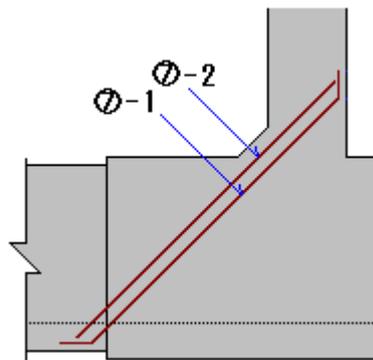
- (1) 外周鉄筋
- (2) 内面鉄筋
- (3) 帯鉄筋 (側壁)
- (4) 内面鉄筋 (中壁)
- (5) 帯鉄筋 (中壁)



- (6) ハンチ筋 (横方向)

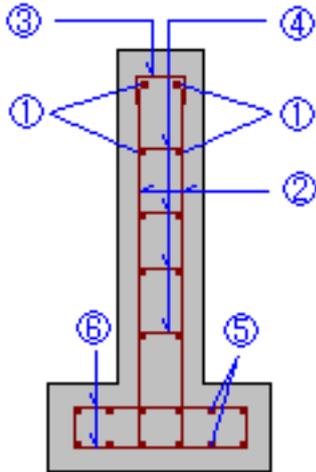


- (7) ハンチ筋 (縦方向)



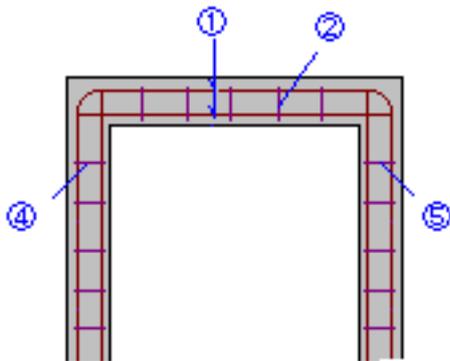
6. しゃ水壁鉄筋

- (1) たて壁主鉄筋
- (2) たて壁配力筋
- (3) たて壁天端筋
- (4) たて壁組立筋
- (5) 底版主鉄筋
- (6) 底版配力筋

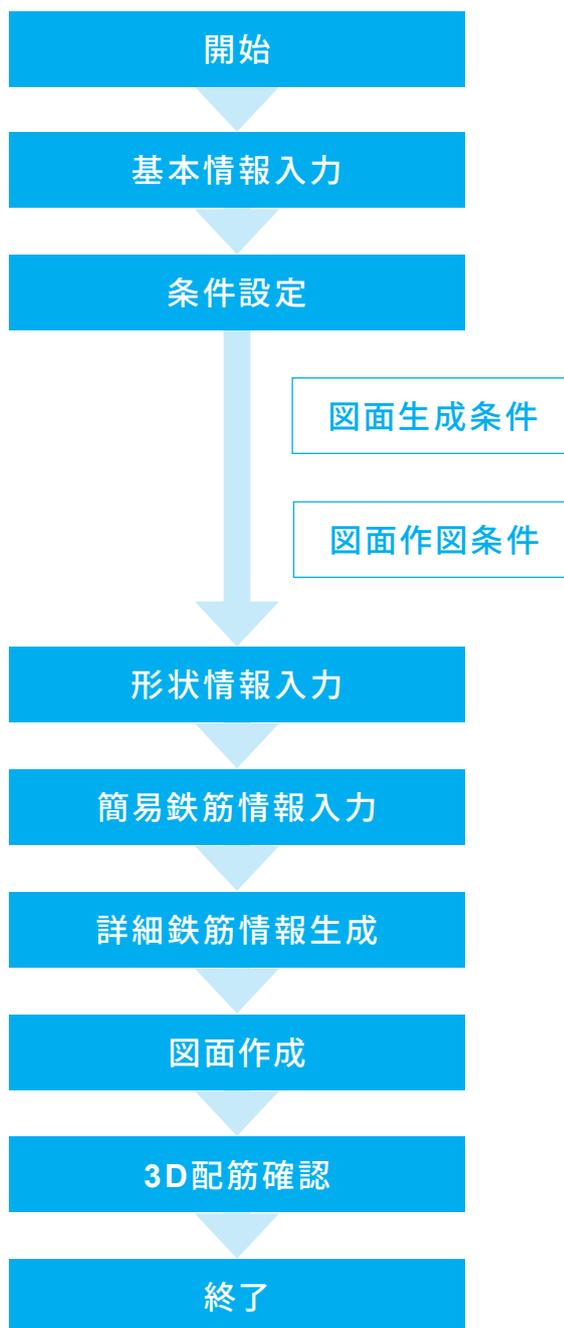


7. カラー継手鉄筋

- (1) 横方向主鉄筋
- (2) 帯鉄筋 (頂版)
- (3) 帯鉄筋 (底版)
- (4) 帯鉄筋 (左側壁)
- (5) 帯鉄筋 (右側壁)



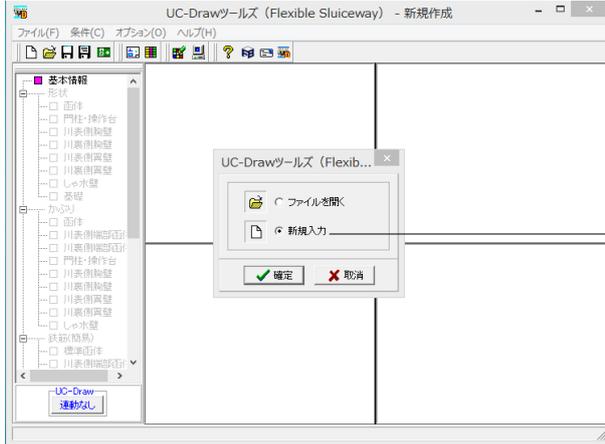
## 2 フローチャート



## 第2章 操作ガイダンス

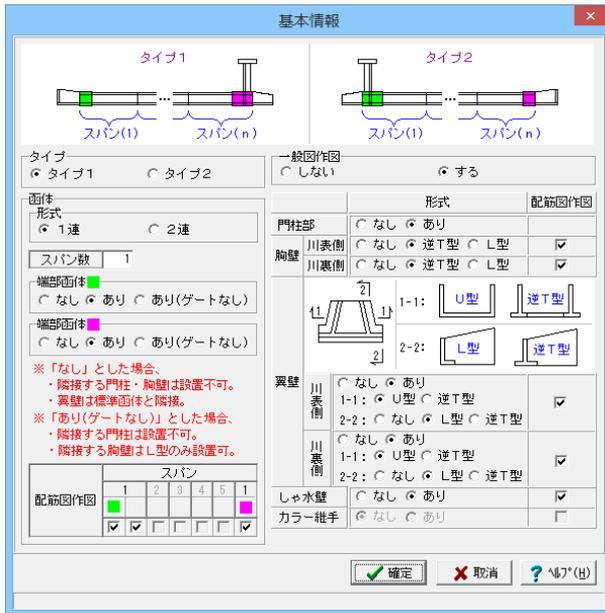
### 1 基本情報入力

サンプルデータ「Sample\_1.F7J」を例題として作成します。  
各入力項目の詳細については製品の【ヘルプ】をご覧ください。



「新規入力」を選択し、「確定」ボタンを押してください。

※すでに保存されているデータファイルを読み込む場合は、「ファイルを開く」を選択し、「確定」ボタンを押してください。



「基本情報」画面が表示されますので、下記のように設定してください。

**タイプ:**タイプ1

図面における「川表」・「川裏」の作図方向を指定します。門柱は川表側に設置するものとします。

**函体-形式:**1連

函体を1連とするか2連とするかを指定します。

**函体-スパン数:**1

最大で5スパンまでとします。

**函体-端部函体:**あり

「なし」とした場合、

- 隣接する門柱及び胸壁は設置できません。

- 翼壁は標準函体と隣接します。

「あり(ゲートなし)」とした場合、

- 隣接する門柱を設置することはできません。

- 隣接する胸壁はL型のみ設置が可能です。

**函体-配筋図作図:**作図が必要となるスパンのチェックボックスにチェックを付けてください。

スパン					
1					1
緑					桃
✓	✓				✓

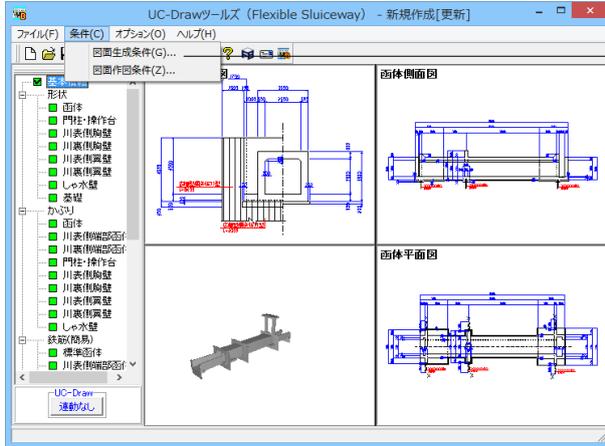
**一般図作図:**する

「一般図」を作図するか否かを指定します。

	形式	配筋図作図
門柱部	あり	(なし)
胸壁	川表側	逆T型 ✓
	川裏側	逆T型 ✓
翼壁	川表側	あり、U型、L型 ✓
	川裏側	あり、U型、L型 ✓
しゃ水壁	あり	✓
カラー継手	(なし)	(なし)

## 2 図面生成条件

図形の縮尺や作図の有無・作図方法など各図形を生成する際の条件を設定します。



メインメニューの「条件」→「図面生成条件」を選択します。  
「図面生成条件」画面が表示されます。



各ボタンを押すと入力画面が表示されますので、各図形の生成条件を設定してください。

※レイアウトの調整をしたい。  
(Q1-3-10参照)

<https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-sluiiceqa.htm#q1-3-10>

配筋図(1)



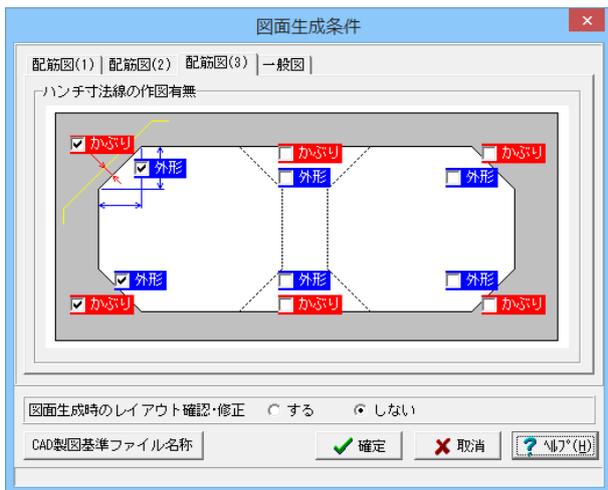
項目	入力値	説明
縮尺	配筋図：50 組立図：15 矢視図：100 加工図：50	各図形の作図縮尺を指定します。
図面表題；函体1	標準部函体配筋図	図面に表記する「図面表題(図面タイトル)」を指定します。
図面表題；函体2	標準部函体配筋図(第2スパン)	
図面表題；函体3	標準部函体配筋図(第3スパン)	
図面表題；函体4	標準部函体配筋図(第4スパン)	
図面表題；函体5	標準部函体配筋図(第5スパン)	
図面表題；川表側端部函体	川表側端部函体配筋図	
図面表題；川裏側端部函体	川裏側端部函体配筋図	
図面表題；川表胸壁	川表胸壁配筋図	
図面表題；川裏胸壁	川裏胸壁配筋図	
図面表題；川表翼壁	川表翼壁配筋図	
図面表題；川裏翼壁	川裏翼壁配筋図	
図面表題；しゃ水壁	しゃ水壁配筋図	
図面表題；カラー継手	カラー継手配筋図	

配筋図(2)



項目	入力値	説明
定尺鉄筋	使用する(変化なし)	鉄筋に継ぎ手が発生した場合、定尺鉄筋を使用するかしないか、および、定尺鉄筋を使用する際の定尺鉄筋の扱いを指定します。定尺鉄筋の扱いについては製品ヘルプをご覧ください。
単位メートル作図	しない	単位メートルあたりの作図をするかしないかを指定します。
鉄筋材質	SD295	「土木製図基準 平成15年小改訂版」仕様の鉄筋加工表に記載する「鋼材材質」を指定します。
配力筋位置	主鉄筋の外側	縦方向鉄筋や配力筋を横方向主鉄筋や他の主鉄筋の内側に配置するか外側に配置するかを指定します。
加工図表記	加工図	鉄筋の加工形状の表記方法を指定します。
数量計算	計算する	コンクリート体積・型枠面積を算出して数量表を作図するかしないかを指定します。

配筋図(3)



断面図のハンチ寸法・ハンチ部かぶり寸法の作図の設定を行います。作図が必要な箇所に✓をつけてください。図面生成時には、チェックのついた箇所の寸法のみ作図を行います。今回は画面左側のかぶりと外形にチェックを入れてください。

一般図



一般図を生成する際の諸条件の指定を行います。諸条件の確認・修正を行ってください。

項目	入力値	説明
縮尺	正面図・断面図 図:100 側面図・平面図	各図形の縮尺を指定します。
作図タイプ	全体作図	函体側面図および函体平面図の全体を作図するか、中間部を省略して作図するかを指定します。
図面表題	柔構造樑門一般構造図	一般図の図面に表記する「図面表題(図面タイトル)」を指定します。

◆「図面生成時のレイアウト確認・修正」  
図面生成段階で図面レイアウトの確認・修正を行うか行わないかの指定を行います。

「する」と指定された場合、図面生成実行中に「レイアウト確認・修正」画面が表示されますので、必要に応じ図形の配置図面の変更や作図位置の変更などの図面レイアウトの調整を行ってください。  
本データでは、「しない」と設定します。

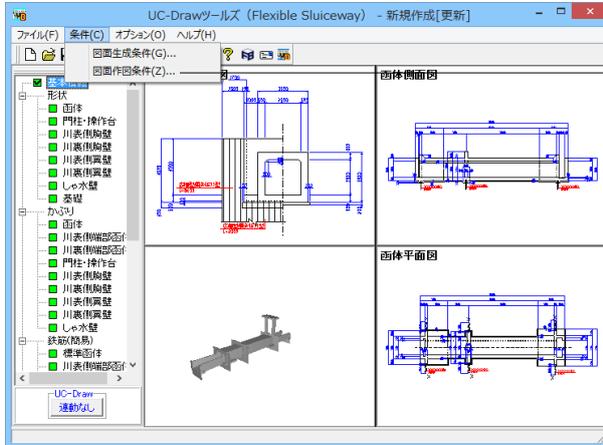
◆「CAD製図基準ファイル名称」ボタン  
生成する各図面に付加する「CAD製図基準(案)の命名規則」に従ったファイル名称を設定します。  
「CAD製図基準ファイル名」ボタンをクリックして諸条件の確認・修正を行ってください。



※このファイル名称は、図面確認で図面を「SXFファイル・DXFファイル・DWGファイル・JWWファイル・JWCファイル」に出力する際のファイル名称として使用されます。  
※生成する図面が複数の場合、ここで指定された「図面番号」を最初の図面番号とし、プラス1する方法で順に自動付けします。  
※「図面種類」は、変更できません。  
※上図の各設定項目の詳細については、「CAD製図基準(案)平成15年7月版」を参照してください。

### 3 図面作図条件

図面生成時に使用する材料計算用基準値や数値の止め・まるめ方法および寸法線・引出線・文字・表の作図書式などを指定します。



メインメニュー「条件」-「図面作図条件」を選択します。「作図条件」画面が表示されます。



「作図条件データ選択」の「▼」をクリックし、「国土交通省」を選択してください。国土交通省仕様に準拠した条件が設定されます。

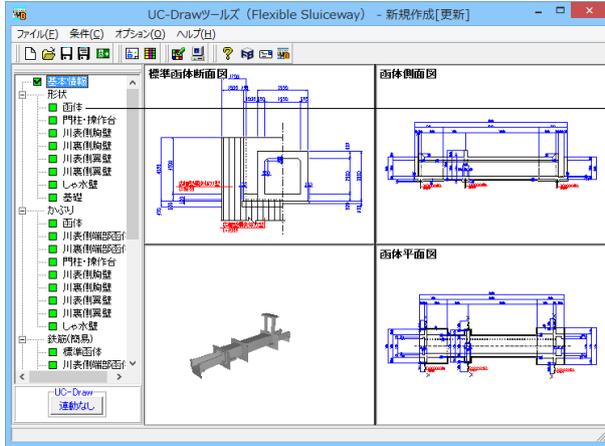
※作図条件の情報は前回使用した値を保持していますので、前回と異なる条件で作図させる場合以外には変更の必要はありません。変更する場合は、各ボタンを押して表示される画面で設定を行ってください。  
 入力項目の説明につきましては、各画面上の「ヘルプ」ボタンを押して表示されるヘルプ情報をご参照ください。  
 ※本プログラムでは、国土交通省仕様のほかに道路公団仕様の作図書様データも用意しています。  
 道路公団仕様に準拠して図面を作成する場合は、「作図条件データ選択」の「▼」をクリックし、「道路公団」を選択してください。  
 ※CAD 製図基準(案)やCAD による図面作成要領(案)に準拠した図面を作成する場合は、「レイヤ属性」で指定してください。

※作図するフォントを変更するには?  
 (Q1-1-19参照)

<https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-sluiceqa.htm#q1-1-19>

## 4 形状情報入力

### 4-1 函体



函体及び端部函体の形状寸法を入力します。下表の入力値に従って設定してください。

※寸法は「m」で入力してください。

※開始スパン及び最終スパンのスパン長は端部函体の長さを含みます。

※グレー表示されている項目(表)は入力することはできません。

#### 1) 断面寸法(m)

##### 1. 標準部

WL	0.6		H	W
SW	2.5	LT	0.2	0.2
WT	0.5	LB	0	0
SH	2.5	RT	0.2	0.2
WB	0.6	RB	0	0

##### 2. 川表側端部

WL	0.8		H	W
SW	2.5	LT	0.2	0.2
WT	0.5	LB	0	0
SH	2.5	RT	0.2	0.2
WB	0.6	RB	0	0

##### 3. 川裏側端部

WL	0.8		H	W
SW	2.5	LT	0.2	0.2
WT	0.5	LB	0	0
SH	2.5	RT	0.2	0.2
WB	0.6	RB	0	0

#### 2) 各スパン長(m)

川表側 端部	4.5	スパン1	スパン2	スパン3	スパン4	スパン5
川裏側 端部	4.5	24				

#### 3) 端部函体寸法(m)

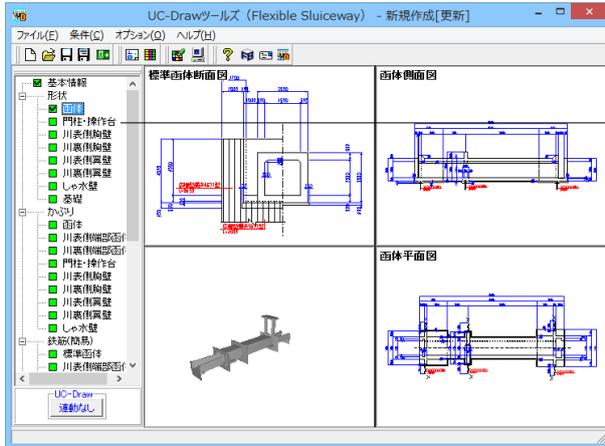
##### 1. 川表側

WL	0.4
WH	0.5
WHH	0.5
GL1	0.5
GL2	0.9
GSC	0.4
GFC	0.2
TH	0

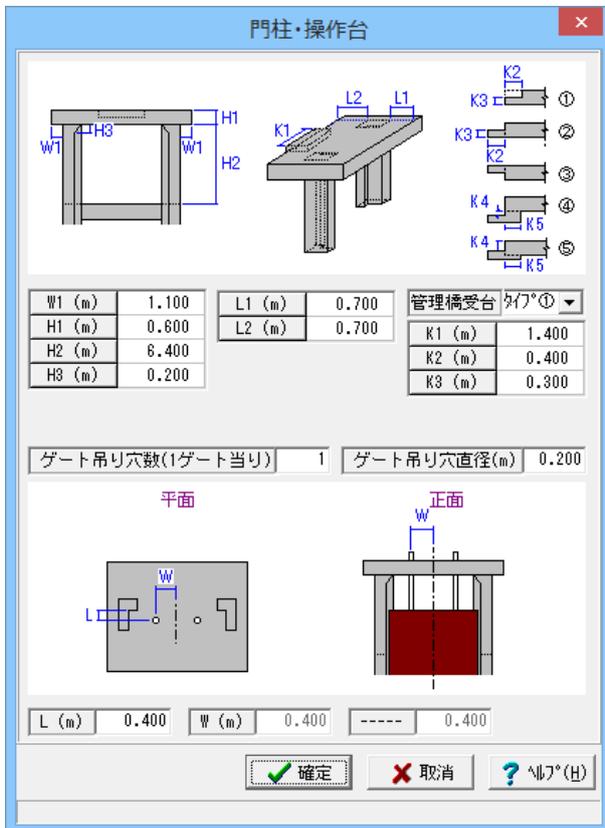
##### 1. 川裏側

WL	0.4
WH	0.5
WHH	0.5
GL1	0.5
GL2	0.2
GSC	0.2
GFC	0
TH	0

## 4-2 門柱・操作台



門柱及び操作台の形状寸法を入力します。下表の入力値に従って設定してください。

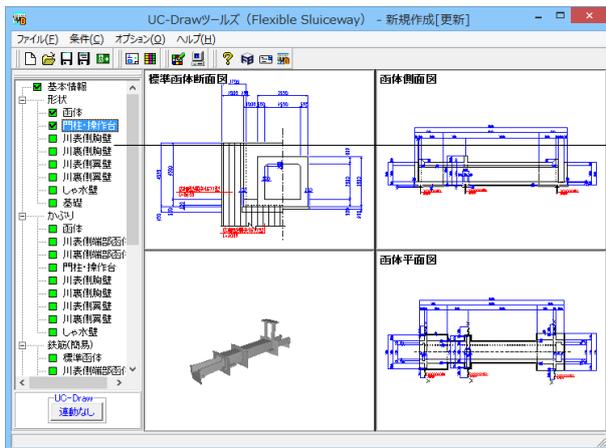


※寸法は「m」で指定してください。

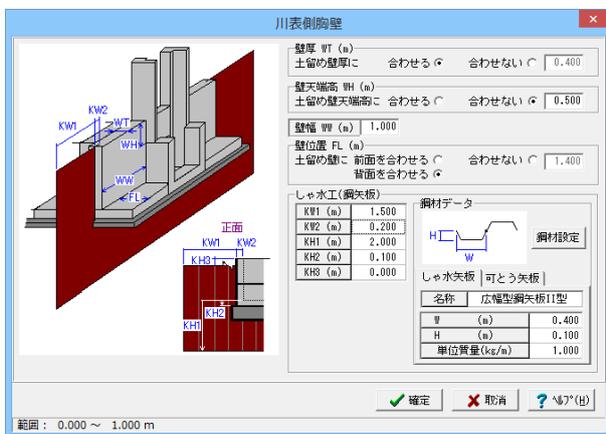
※函体が1連の場合の「W」、及び2連時の「WL」及び「WR」は「ゲート吊り穴数(1ゲート当り)」の入力が「2」の場合に入力することができます。

項目	入力
W1(m)	1.1
H1(m)	0.6
H2(m)	6.4
H3(m)	0.2
L1(m)	0.7
L2(m)	0.7
管理橋受台	タイプ①
K1(m)	1.4
K2(m)	0.4
K3(m)	0.3
ゲート吊り穴数	1
ゲート吊り穴直径	0.2
L(m)	0.4
W(m)	(なし)

### 4-3 川表側胸壁・川裏側胸壁



川表(裏)側胸壁の形状寸法を入力します。下表の入力値に従って設定してください。  
※寸法は「m」で入力してください。



項目	入力
壁厚WT(m)	合わせる
壁天端高 WH(m)	合わせない0.5
壁幅WW(m)	1
壁位置FL(m)	前面を合わせる

しゃ水工(鋼矢板)

項目	入力
KW1(m)	1.5
KW2(m)	0.2
KH1(m)	2
KH2(m)	0.1
KH3(m)	0

鋼材データ しゃ水矢板

項目	入力
名称	広幅型鋼矢板II型
W(m)	0.4
H(m)	0.1
単位質量(kg/m)	1

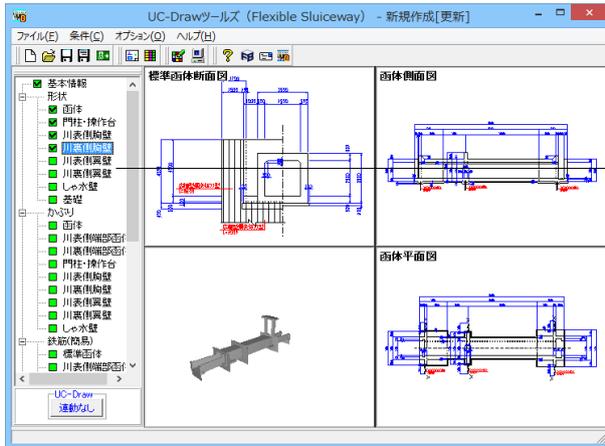
鋼材データ 可とう矢板

項目	入力
名称	(なし)

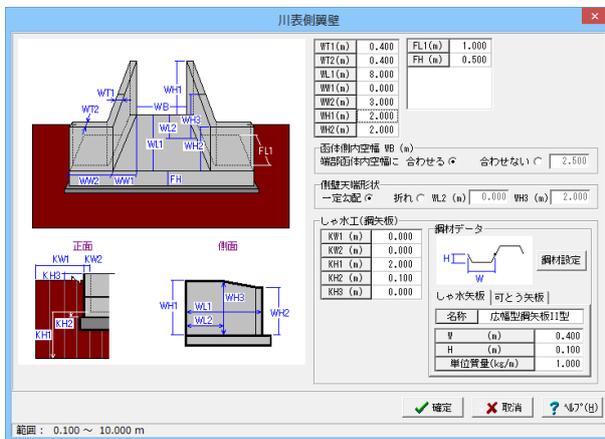
※可とう鋼矢板を配置する場合「名称」「寸法」を入力してください。「名称」が「空白」の場合は「可とう鋼矢板」を配置しません。

※鋼材情報「名称、寸法」は、「鋼材設定」画面で、ファイル保存・ファイル読み込みが可能です。

#### 4-4 川表側翼壁・川裏側翼壁



川表(裏)側翼壁の形状寸法を入力します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は「m」で入力してください。  
 ※翼壁の先端高(WH2)を0mとする場合は、基本情報画面にて先端壁(2-2断面)を「なし」としてください。  
 ※先端壁を設置する場合は、「WH2>0」としてください。  
 ※側壁先端形状を「折れ」とする場合は、「WH2 ≤ WH3」としてください。



項目	入力
WT1(m)	0.4
WT2(m)	0.4
WL1(m)	8
WL2(m)	0
WH1(m)	2
WH2(m)	2
WH3(m)	0
WB(m)	合わせる
FL1(m)	1
FH(m)	0.5
鋼材側内空幅WB(m)	合わせる
側壁先端形状	一定勾配

##### しゃ水工(鋼矢板)

項目	入力
KW1(m)	0
KW2(m)	0
KH1(m)	2
KH2(m)	0.1
KH3(m)	0

##### 鋼材データ しゃ水矢板

項目	入力
名称	広幅型鋼矢板II型
W(m)	0.4
H(m)	0.1
単位質量(kg/m)	1

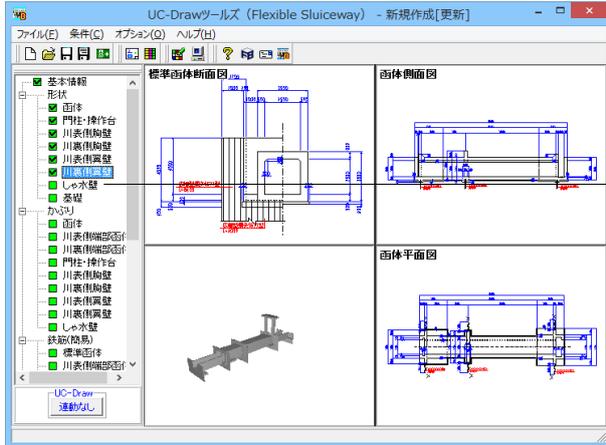
##### 鋼材データ 可とう矢板

項目	入力
名称	(なし)

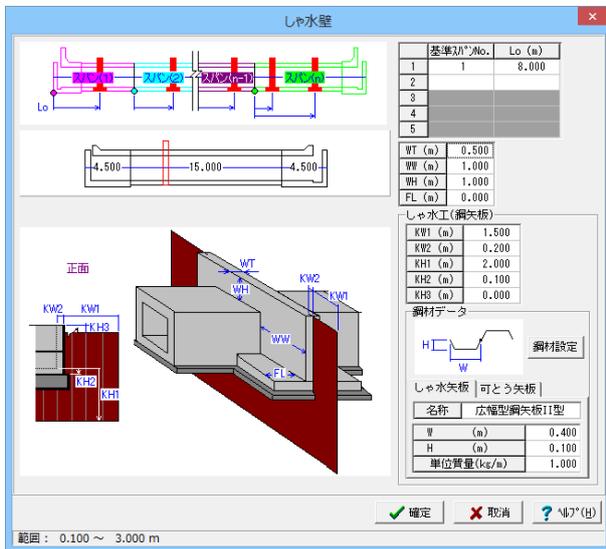
※可とう鋼矢板を配置する場合「名称」「寸法」を入力してください。「名称」が「空白」の場合は「可とう鋼矢板」を配置しません。

※鋼材情報「名称、寸法」は、「鋼材設定」画面で、ファイル保存・ファイル読み込みが可能です。

4-5 しゃ水壁



しゃ水壁の形状寸法を入力します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は「m」で入力してください。  
 ※「基準スパンNo」は最も左側に位置する函体を「1」とします。



	基準スパンNo.	Lo(m)
1	1	8

項目	入力
WT(m)	0.5
WW(m)	1
WH(m)	1
FL(m)	0

しゃ水工(鋼矢板)

項目	入力
KW1(m)	1.5
KW2(m)	0.2
KH1(m)	2
KH2(m)	0.1
KH3(m)	0

鋼材データ しゃ水矢板

項目	入力
名称	広幅型鋼矢板II型
W(m)	0.4
H(m)	0.1
単位質量(kg/m)	1

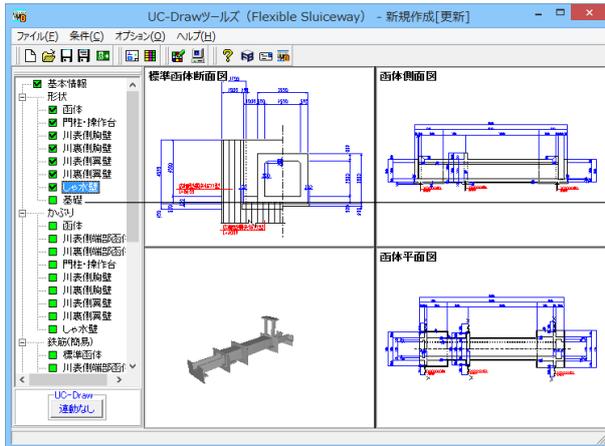
鋼材データ 可とう矢板

項目	入力
名称	(なし)

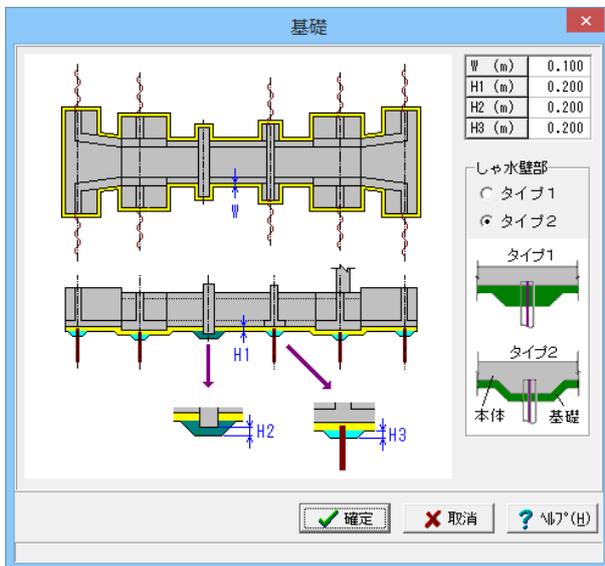
※可とう鋼矢板を配置する場合「名称」「寸法」を入力してください。「名称」が「空白」の場合は「可とう鋼矢板」を配置しません。

※鋼材情報「名称、寸法」は、「鋼材設定」画面で、ファイル保存・ファイル読み込みが可能です。

## 4-6 基礎



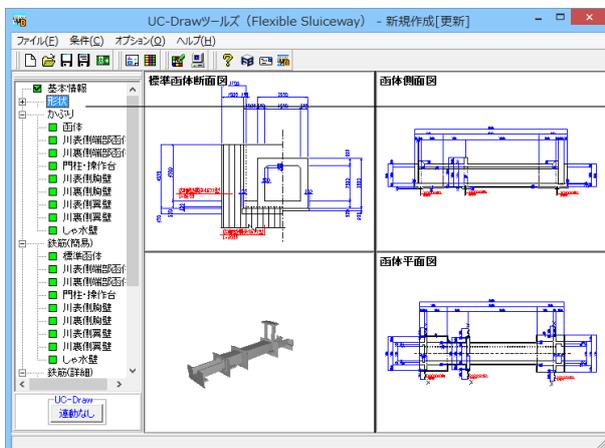
均しコンクリートの形状寸法を入力します。下表の入力値に従って設定してください。  
※寸法は「m」で指定してください。



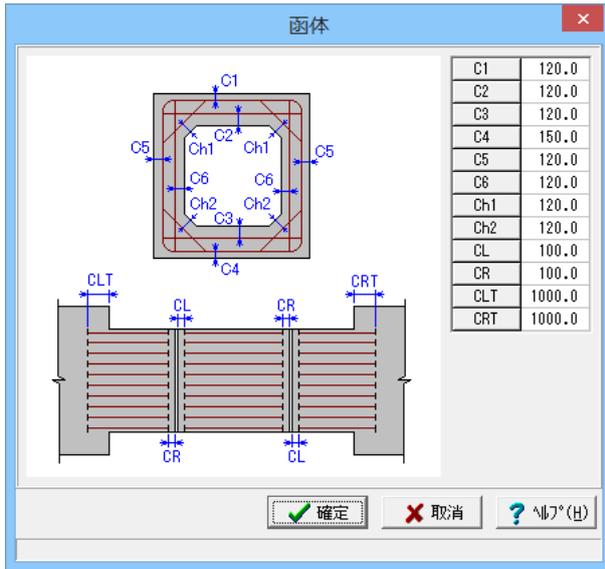
項目	入力
W(m)	0.1
H1(m)	0.2
H2(m)	0.2
H3(m)	0.2
しゃ水壁部	タイプ2

## 5 かぶり情報入力

### 5-1 函体

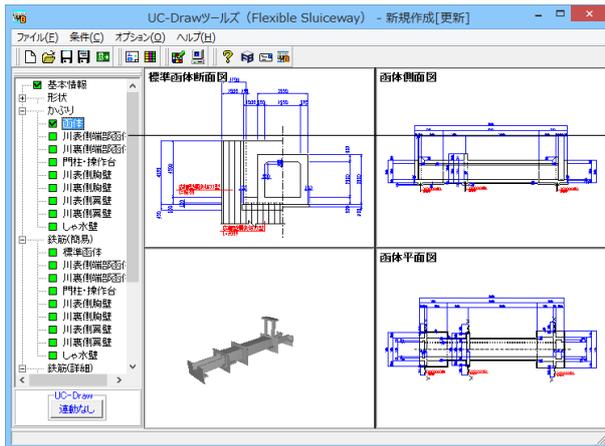


各構造物のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。

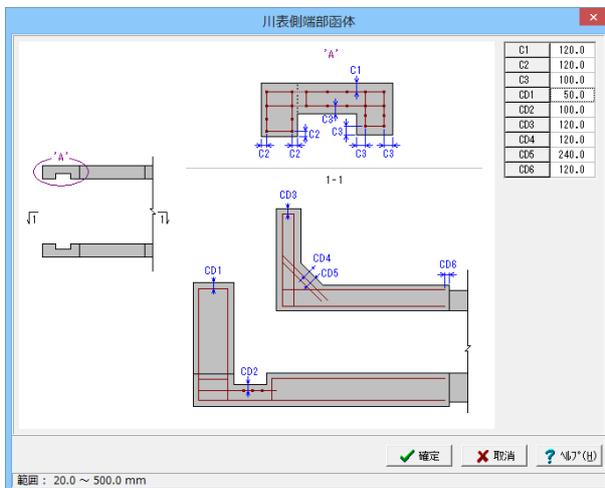


項目	入力
C1	120
C2	120
C3	120
C4	150
C5	120
C6	120
C7	120
Ch1	120
Ch2	120
CL	100
CR	100
CLT	1000
CRL	1000

### 5-2 川表側端部函体

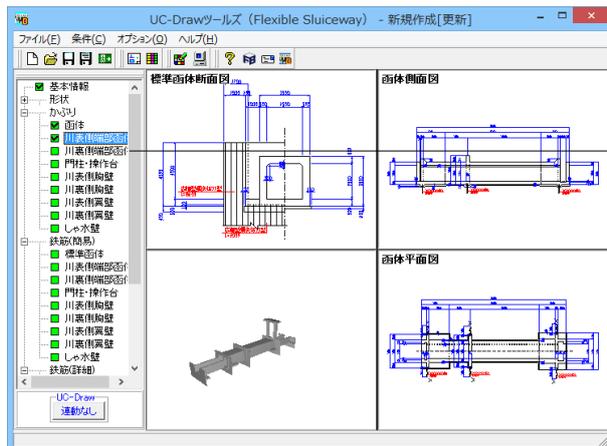


川表側端部函体のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
 ※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。

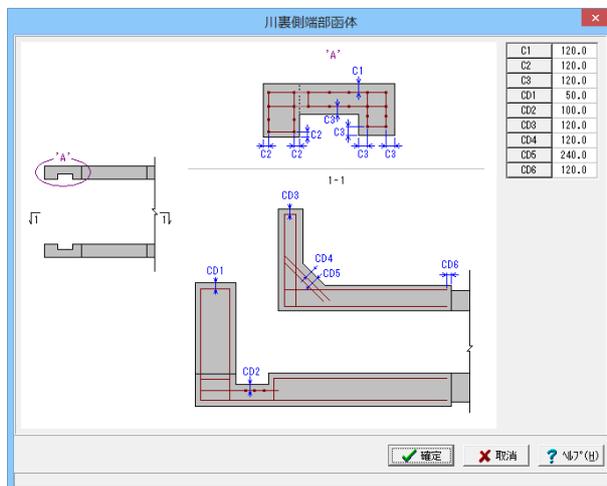


項目	入力
C1	100
C2	120
C3	100
CD1	50
CD2	100
CD3	120
CD4	120
CD5	240
CD6	120

### 5-3 川裏側端部函体

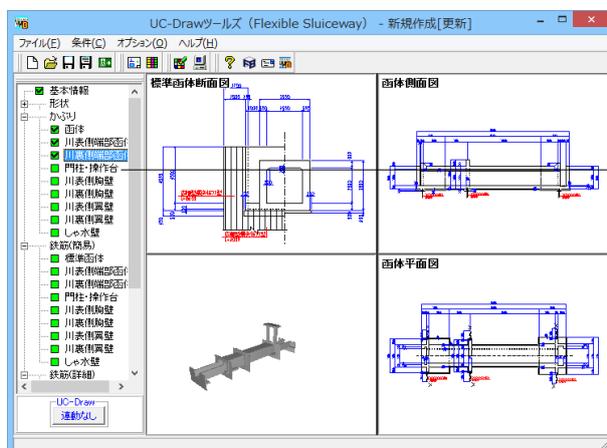


川裏側端部函体のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
 ※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。

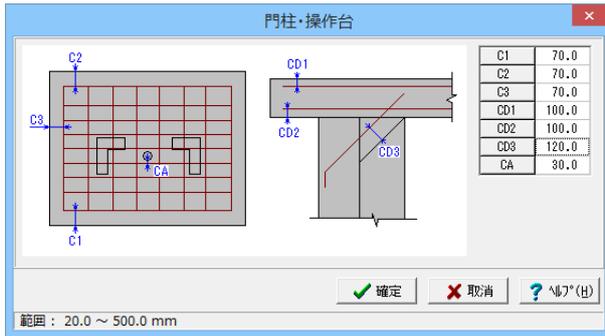


項目	入力
C1	120
C2	120
C3	120
CD1	50
CD2	100
CD3	120
CD4	120
CD5	240
CD6	120

### 5-4 門柱・操作台

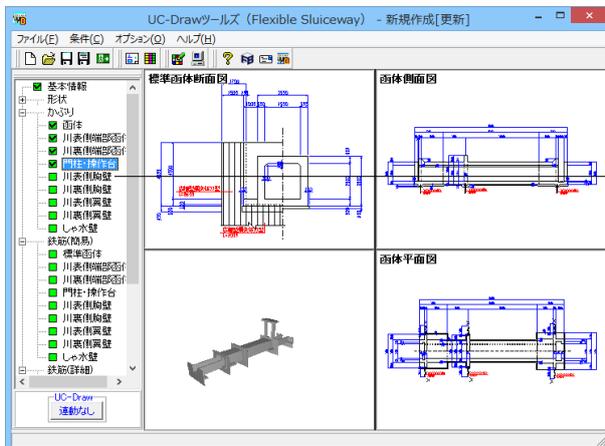


門柱・操作台のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
 ※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。

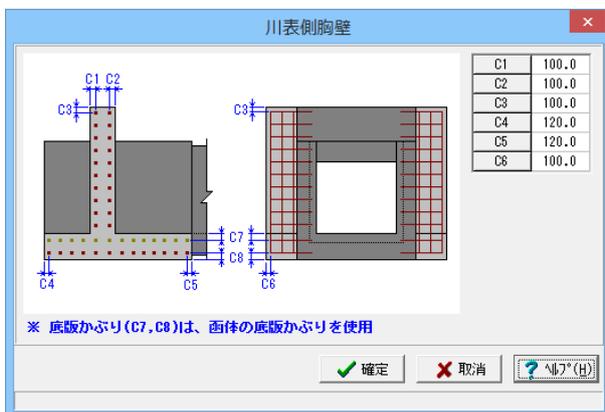


項目	入力
C1	70
C2	70
C3	70
CD1	100
CD2	100
CD3	120
CA	30

### 5-5 川表側胸壁・川裏側胸壁

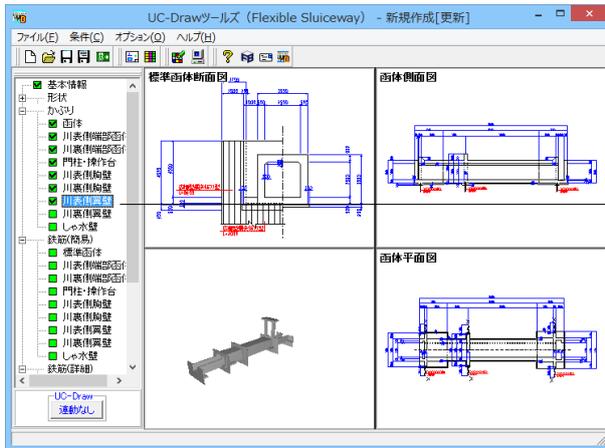


川表側胸壁のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
 ※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。

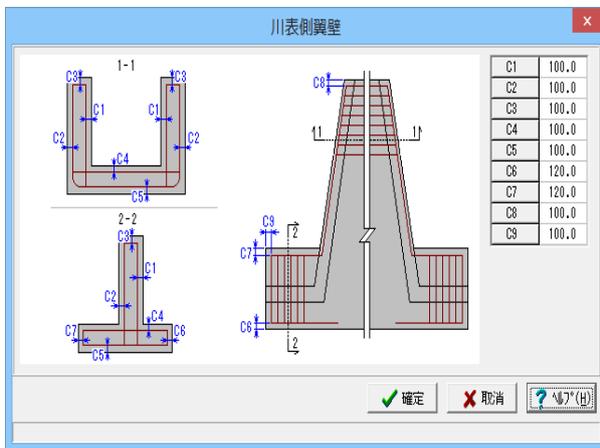


項目	入力
C1	100
C2	100
C3	100
C4	120
C5	120
C6	100

## 5-6 川表側翼壁・川裏側翼壁

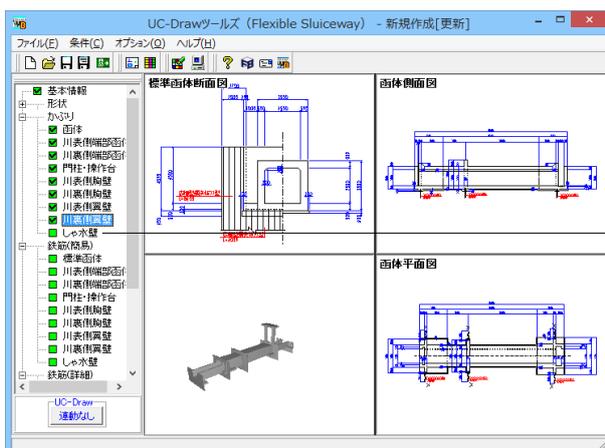


川表側翼壁のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
 ※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。

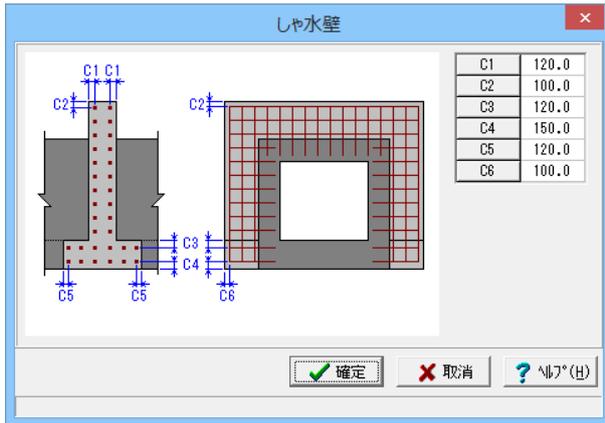


項目	入力
C1	100.0
C2	100
C3	100.0
C4	100
C5	100.0
C6	120.0
C7	120.0
C8	100.0
C9	100.0

## 5-7 しゃ水壁



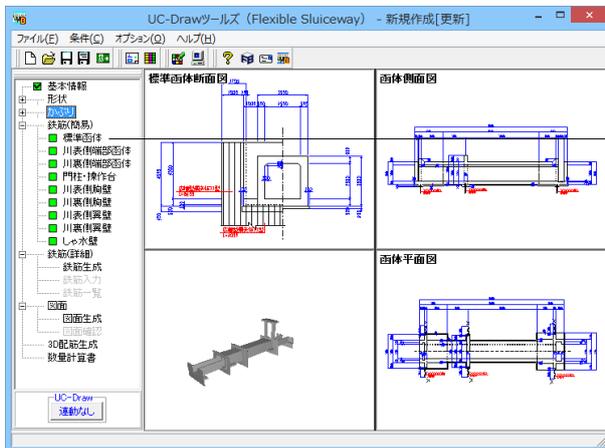
しゃ水壁のかぶり及び鉄筋の止め位置を指定します。下表の入力値に従って設定してください。  
 ※寸法は(単位: mm)で指定してください。  
 ※かぶりは躯体外面から鉄筋中心までの芯かぶりを入力してください。



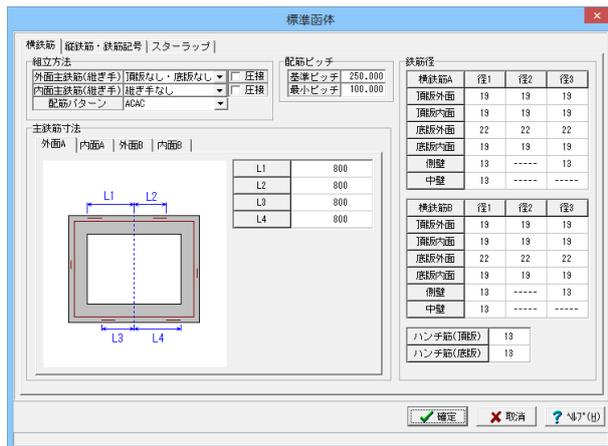
項目	入力
C1	120
C2	100
C3	120
C4	150
C5	120
C6	100

## 6 簡易鉄筋情報入力

### 6-1 標準函体



標準函体の簡易鉄筋情報を指定します。下表の入力値に従って設定してください。



## 横鉄筋 組立方法

外面主鉄筋(継ぎ手)	頂版なし・底版なし	□圧接
内面主鉄筋(継ぎ手)	継ぎ手なし	□圧接
C2	ACAC	

- ・組立方法【外面主鉄筋(継ぎ手)】  
頂底版外面主鉄筋の継ぎ手数を指定します。  
※継ぎ手方法を「圧接」とする場合には「圧接」のチェックボックスにチェックを付けてください。
- ・組立方法【内面主鉄筋(継ぎ手)】  
頂底版内面主鉄筋の継ぎ手数を指定します。
- ・組立方法【配筋パターン】  
横鉄筋の配筋パターンを指定します。

「AAA」：A→A→A→A→以降繰り返し  
「BAB」：A→B→A→B→以降繰り返し  
「ACB」：A→B→C→B→以降繰り返し  
「ACAC」：A→C→A→C→以降繰り返し  
※配筋パターンに「ACB」や「ACAC」が指定された場合、「C」鉄筋には「A」鉄筋の径を使い、継ぎ手位置を変えた鉄筋を使用します。

## 配筋ピッチ

基準ピッチ	250
最少ピッチ	100

配筋情報生成に使用する基準ピッチと最小ピッチを指定します。

## 主鉄筋寸法

外面A L1~L4	800
内面A L1~L4	800
外面B L1~L8	800
内面B L1~L4	800

外面主鉄筋および内面主鉄筋の各寸法を算出するための値を指定します。なお、継ぎ手長については、「条件(C)」→「図面作図条件(Z)」→「計算基準」の「鉄筋基準値」の「主鉄筋継手長」を使用します。

### ①外面A

主鉄筋「A」の外面側の継ぎ手位置の先端を、「1連の場合は内空中央からの寸法」で、「2連の場合は中壁中央からの寸法」で指定します。

<継ぎ手なし>

本指定は使用しません。

<継ぎ手1ヶ所>

1)1連の場合

本指定は使用せず、内空中央から「条件(C)」→「図面作図条件(Z)」→「計算基準」の「鉄筋基準値」の「主鉄筋継手長」分ラップさせます。なお、「A鉄筋」と「C鉄筋」では継ぎ手位置が左右反転します。

2)2連の場合

「A鉄筋」には「L1・L4」を、「C鉄筋」には「L2・L3」を使用します。

<継ぎ手2ヶ所>

1)1連の場合

入力値の「L1~L4」を使用しますが、「左右の主鉄筋径が同じ」場合には「A鉄筋=入力値」・「C鉄筋=左右反転した値」を使用し、「左右の主鉄筋径が違う」場合には「A鉄筋=入力値」・「C鉄筋=上下反転した値」を使用します。

2)2連の場合

「A鉄筋」には入力値「L1~L4」をそのまま、「C鉄筋」には上下反転した値を使用します。

※上記の「1連の継ぎ手2ヶ所の左右反転」は、以下の4つの条件が満たされた場合に行います。

- ・頂版の外面鉄筋の左右の鉄筋径が同じ
- ・底版の外面鉄筋の左右の鉄筋径が同じ
- ・頂版の内面鉄筋の左右の鉄筋径が同じ
- ・底版の内面鉄筋の左右の鉄筋径が同じ

※左右側壁部分の継ぎ手位置は内空中央から、「条件(C)」→「図面作図条件(Z)」→「計算基準」の「鉄筋基準値」の「継ぎ手長」分ラップさせます。

※左端部・右端部主鉄筋の「A・C」については、鈍角側の側壁部分には継ぎ手は設けず、上下部分とも「条件(C)」→「図面作図条件(Z)」→「計算基準」の「鉄筋基準値」の「定着長」で止めます。「B」については入力された寸法をそのまま使用します。

#### ②内面A

主鉄筋「A」の内面側の継ぎ手位置の先端を、「1連の場合は内空中央からの寸法」で、「2連の場合は中壁中央からの寸法」で指定します。なお、継ぎ手数で入力値の意味合いが以下のように変わります。

- 1)「継ぎ手なし」の場合、本指定は使用しません。
- 2)「継ぎ手1ヶ所」の場合、「左右の主鉄筋径が同じ」場合には「A鉄筋=L1・L4」・「C鉄筋=A鉄筋の左右反転」を使用し、「左右の主鉄筋径が違う」場合には「A鉄筋」には「L1・L4」を、「C鉄筋」には「L2・L3」を使用します。
- 3)「継ぎ手2ヶ所」の場合、入力値の「L1～L4」を使用しますが、「左右の主鉄筋径が同じ」場合には「A鉄筋=入力値」・「C鉄筋=左右反転した値」を使用し、「左右の主鉄筋径が違う」場合には「A鉄筋=入力値」・「C鉄筋=上下反転した値」を使用します。
- 4)「継ぎ手3ヶ所」の場合、「1連=内空中央」・「2連=中壁中央」・「3連=真ん中の内空中央」部分に「条件(C)」→「図面作図条件(Z)」→「計算基準」の「鉄筋基準値」の「主鉄筋継手長」分ラップさせ、左右の継ぎ手は入力値「L1～L4」をそのまま使用しますが、「左右の主鉄筋径が同じ」場合には「A鉄筋=入力値」・「C鉄筋=左右反転した値」を使用し、「左右の主鉄筋径が違う」場合には「A鉄筋=入力値」・「C鉄筋=上下反転した値」を使用します。

※上記の「左右反転」は、以下の4つの条件が満たされた場合に行います。

- ・頂版の外側鉄筋の左右の鉄筋径が同じ
- ・底版の外側鉄筋の左右の鉄筋径が同じ
- ・頂版の内側鉄筋の左右の鉄筋径が同じ
- ・底版の内側鉄筋の左右の鉄筋径が同じ

#### ③外面B

主鉄筋「B」の外面側の定着位置を指定します。各寸法はそれぞれの部材の中心からの長さを指定してください。

※1連の場合は「BOXの4隅」に、2連の場合は「BOXの4隅+中壁部分」に配置します。

#### ④内面B

主鉄筋「B」の内面側の定着位置を指定します。各寸法はそれぞれの部材の中心からの長さを指定してください。

※全ての内空の上下にそれぞれ配置します。なお、側壁および中壁の内面主鉄筋は配筋しません。

※「L1」～「L4」に「0」が入力された場合は、側壁側の先端を外面主鉄筋かぶり位置にとります。

外面主鉄筋および内面主鉄筋の各鉄筋径を指定します。

※以下のように鉄筋径を使用します。

<頂版外面・頂版内面・底版外面・底版内面の場合>

継ぎ手なしの場合：径1を使用します。

継ぎ手1箇所の場合：径1(左側)、径2(右側)を使用します。

継ぎ手2箇所の場合：径1(左側)、径2(右側)、径3(中側)を使用します。

<側壁の場合>

左側壁：径1を使用します。

右側壁：径3を使用します。

<中壁(2連)の場合>

径1を使用します。

### 鉄筋径

横鉄筋A	径1	径2	径3
頂版外面	19	19	19
頂版内面	19	19	19
底版外面	22	22	22
底版内面	19	19	19
側壁	13	-	13
中壁	13	-	-

横鉄筋B	径1	径2	径3
頂版外面	19	19	19
頂版内面	19	19	19
底版外面	22	22	22
底版内面	19	19	19
側壁	13	-	13
中壁	13	-	-

ハンチ筋(頂版)	13	
ハンチ筋(底版)	13	



### 縦鉄筋 配筋ピッチ

頂版版基準ピッチ	125
頂版版最小ピッチ	100
側壁基準ピッチ	250
側壁最小ピッチ	100

各鉄筋の配筋情報生成に使用する基準ピッチと最小ピッチを指定します。

### 鉄筋径

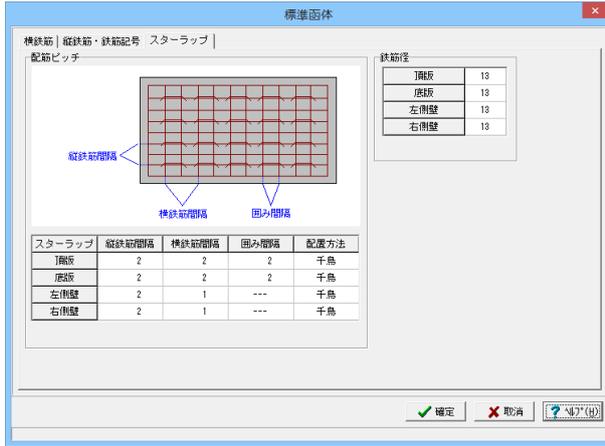
頂版上面	32
頂版下面	29
底版上面	29
底版下面	32
左側壁外面	13
左側壁内面	13
右側壁外面	13
右側壁内面	13

各鉄筋径を指定します。

### 鉄筋記号

鉄筋記号先頭文字	
頂版	S
底版	F
側壁	W

標準函体の鉄筋記号先頭文字を指定します。鉄筋記号は、指定された先頭文字(アルファベット)に番号(数字)をカウントアップしながら付加していく方法で自動付けされます。「鉄筋記号先頭文字」には、先頭文字に使用するアルファベット(A~Z)を指定します。



スターラップ  
配筋ピッチ

	縦鉄筋間隔	横鉄筋間隔	囲み間隔	配置方法
頂版	2	2	2	千鳥
底版	2	2	2	千鳥
左側壁	2	1	-	千鳥
右側壁	2	1	-	千鳥

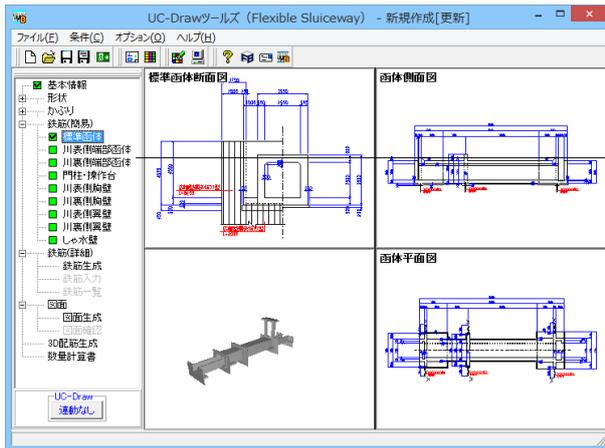
「縦鉄筋間隔」には配置する縦鉄筋の間隔、「横鉄筋間隔」には配置する横鉄筋の間隔を指定します。スターラップはそれらの間隔で配置されます。「囲み間隔」にはスターラップが囲む主鉄筋の間隔数を指定します。「配置方法」では「千鳥状」に位置するか「格子状」に位置するかを指定します。

鉄筋径

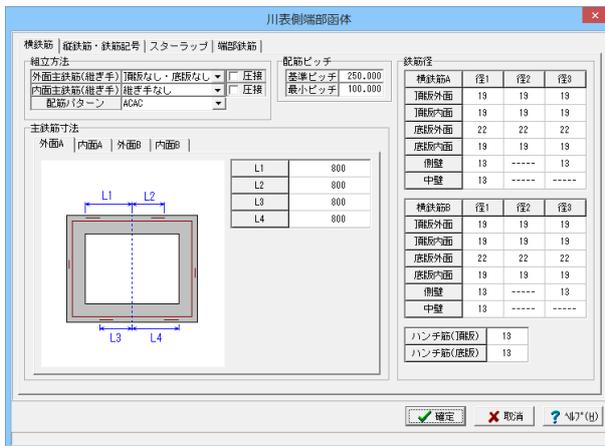
頂版	13
底版	13
左側壁	13
右側壁	13

各鉄筋径を指定します。

6-2 川表(裏)側端部函体



川表(裏)端部函体の簡易鉄筋情報を指定します。



横鉄筋

組立方法

外面主鉄筋(継ぎ手)	頂版なし・底版なし	口圧接
内面主鉄筋(継ぎ手)	継ぎ手なし	口圧接
配筋パターン	ACAC	

配筋ピッチ

基準ピッチ	250
最少ピッチ	100

主鉄筋寸法

外面A L1~L4	800
内面A L1~L4	800
外面B L1~L8	800
内面B L1~L4	800

### 鉄筋径

横鉄筋A	径1	径2	径3
頂版外面	19	19	19
頂版内面	19	19	19
底版外面	22	22	22
底版内面	19	19	19
側壁	13	-	13
中壁	13	-	-

横鉄筋B	径1	径2	径3
頂版外面	19	19	19
頂版内面	19	19	19
底版外面	22	22	22
底版内面	19	19	19
側壁	13	-	13
中壁	13	-	-

ハンチ筋(頂版)	13	
ハンチ筋(底版)	13	

※各タブの詳細につきましては6-1標準函体を参照して下さい。



### 縦鉄筋

#### 配筋ピッチ

頂版版基準ピッチ	125
頂版版最小ピッチ	100
側壁基準ピッチ	250
側壁最小ピッチ	100

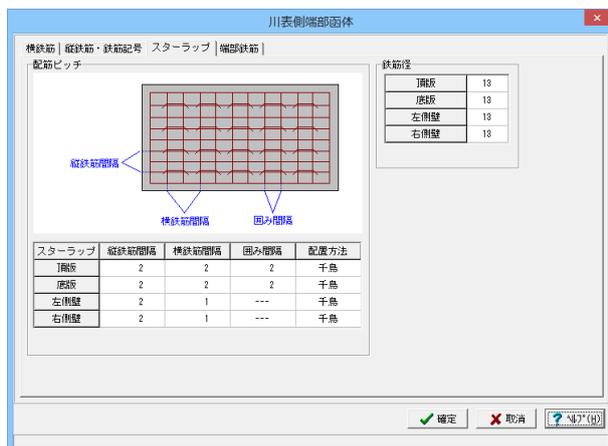
#### 鉄筋径

頂版上面	32
頂版下面	29
底版上面	29
底版下面	32
左側壁外面	13
左側壁内面	13
右側壁外面	13
右側壁内面	13

#### 鉄筋記号

鉄筋記号先頭文字	
頂版	S
底版	F
側壁	W

※各タブの詳細につきましては6-1標準函体を参照して下さい。



### スターラップ

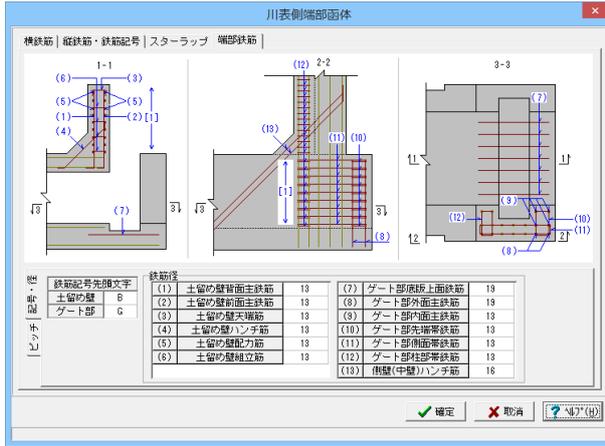
#### 配筋ピッチ

	縦鉄筋間隔	横鉄筋間隔	囲み間隔	配置方法
頂版	2	2	2	千鳥
底版	2	2	2	千鳥
左側壁	2	1	-	千鳥
右側壁	2	1	-	千鳥

#### 鉄筋径

頂版	13
底版	13
左側壁	13
右側壁	13

※各タブの詳細につきましては6-1標準函体を参照して下さい。



記号・径  
鉄筋記号先頭文字

土留め壁	B
ゲート部	G

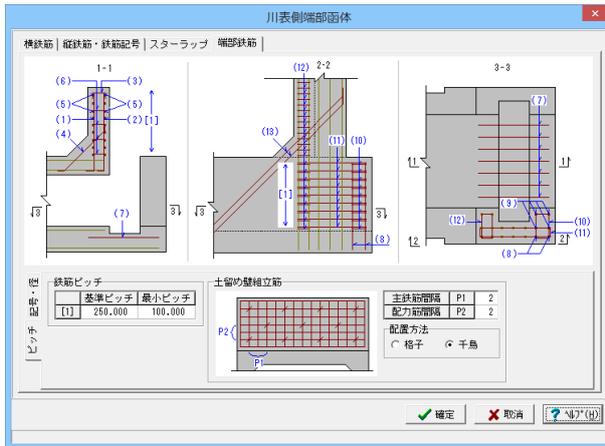
鉄筋記号先頭文字を指定します。鉄筋記号は、指定された先頭文字(アルファベット)に番号(数字)をカウントアップしながら付加していく方法で自動付けされます。「鉄筋記号先頭文字」には、先頭文字に使用するアルファベット(A~Z)を指定します。

鉄筋径

(1)土留め壁背面主鉄筋	13
(2)土留め壁前面主鉄筋	13
(3)土留め壁天端筋	13
(4)土留め壁ハンチ筋	13
(5)土留め壁配筋筋	13
(6)土留め壁組立筋	13
(7)ゲート部底板上面鉄筋	19
(8)ゲート部外面主鉄筋	19
(9)ゲート部内面主鉄筋	13
(10)ゲート部先端帯鉄筋	13
(11)ゲート部側面帯鉄筋	13
(12)ゲート部柱部帯鉄筋	13
(13)側壁(中壁)ハンチ筋	16

端部函体の各鉄筋径を指定します。

配置方法: 千鳥



ピッチ

	鉄筋ピッチ	
	基準ピッチ	最小ピッチ
(1)	250	100

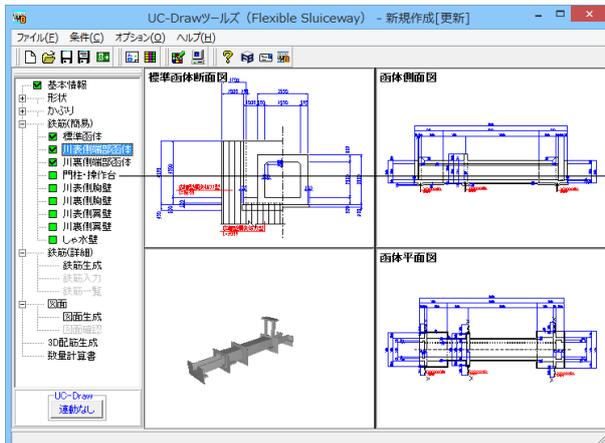
端部函体の配筋情報生成に使用する基準ピッチと最小ピッチを指定します。

土留め壁組立筋

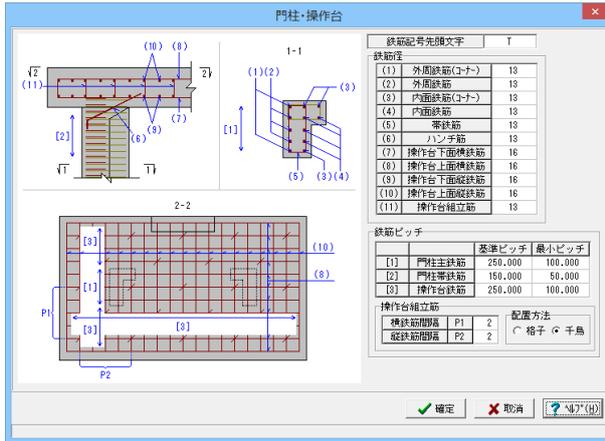
主鉄筋間隔 P1	2
配力筋間隔 P2	2

「主鉄筋間隔」には配置する主鉄筋の間隔、「配力筋間隔」には配置する配力筋の間隔を指定します。スターラップはそれらの間隔で配置されます。「配置方法」では「千鳥状」に位置するか「格子状」に位置するかを指定します。

6-3 門柱・操作台



門柱及び操作台の簡易鉄筋情報を指定します。



### 鉄筋記号先頭文字:T

鉄筋記号先頭文字を指定します。鉄筋記号は、指定された先頭文字(アルファベット)に番号(数字)をカウントアップしながら付加していく方法で自動付けされます。「鉄筋記号先頭文字」には、先頭文字に使用するアルファベット(A~Z)を指定します。

### 鉄筋径

(1)外周鉄筋(コーナー)	13
(2)外周鉄筋	13
(3)内周鉄筋(コーナー)	13
(4)内面鉄筋	13
(5)帯鉄筋	13
(6)ハンチ筋	13
(7)操作台下面横鉄筋	16
(8)操作台上面横鉄筋	16
(9)操作台下面縦鉄筋	16
(10)操作台上面縦鉄筋	16
(11)操作台組立筋	13

各鉄筋径を指定します。

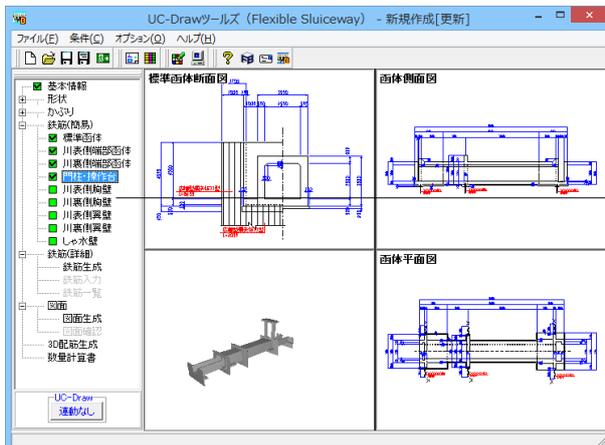
### 鉄筋ピッチ

	基準ピッチ	最小ピッチ
(1)門柱主鉄筋	250	100
(2)門柱帯鉄筋	150	50
(3)操作台鉄筋	250	100

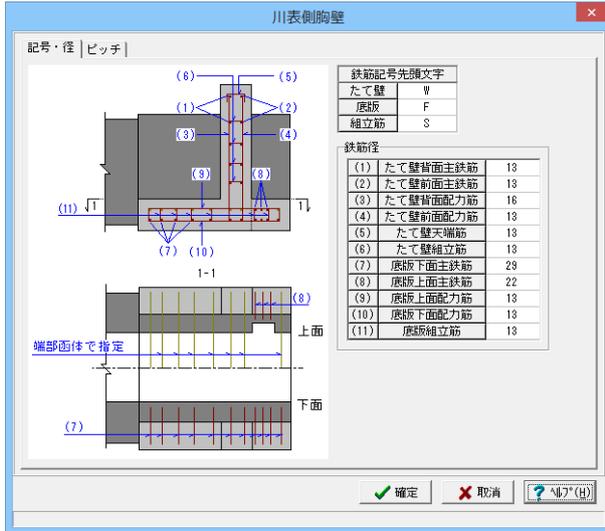
各鉄筋の配筋情報生成に使用する基準ピッチと最小ピッチを指定します。

操作台組立筋：操作台組立筋のピッチを指定します。「横鉄筋間隔」には配置する横鉄筋の間隔、「縦鉄筋間隔」には配置する縦鉄筋の間隔を指定します。組立筋はそれらの間隔で配置されます。「配置方法」では「千鳥状」に位置するか「格子状」に位置するかを指定します。

## 6-4 川表(裏)側胸壁



川表(裏)胸壁の簡易鉄筋情報を指定します。



記号・径  
鉄筋記号先頭文字

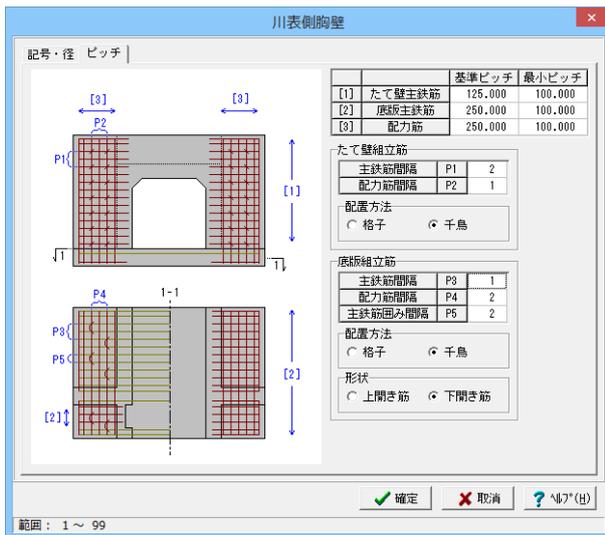
たて壁	W
底板	F
組立筋	S

鉄筋記号先頭文字を指定します。鉄筋記号は、指定された先頭文字に番号(数字)をカウントアップしながら付加していく方法で自動付けされます。「鉄筋記号先頭文字」には、先頭文字に使用するアルファベット(A~Z)を指定します。

鉄筋径

(1)たて壁背面主鉄筋	13
(2)たて壁前面主鉄筋	13
(3)たて壁背面配力筋	16
(4)たて壁前面配力筋	13
(5)たて壁天端筋	13
(6)たて壁組立筋	13
(7)底板下面主鉄筋	29
(8)底板上面主鉄筋	22
(9)底板上面配力筋	13
(10)底板下面配力筋	13
(11)底板組立筋	13

各鉄筋径を指定します。



ピッチ

	標準ピッチ	最小ピッチ
(1)たて壁主鉄筋	125	100
(2)底板主鉄筋	250	100
(3)配力筋	250	100

たて壁組立筋

主鉄筋間隔 P1	2
配力筋間隔 P2	1
配置方法	千鳥

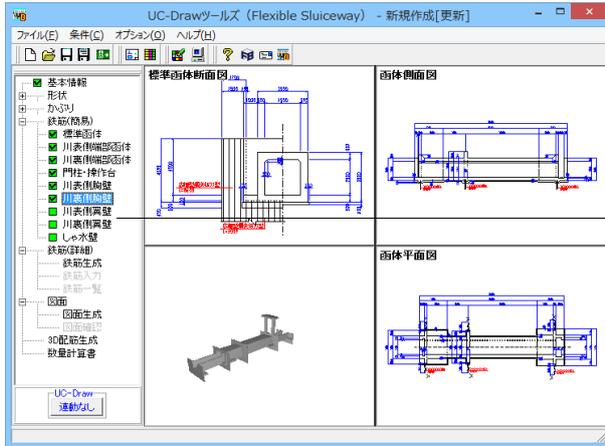
底板組立筋

主鉄筋間隔 P3	1
配力筋間隔 P4	2
主鉄筋囲み間隔 P5	2
配置方法	千鳥
形状	下開き筋

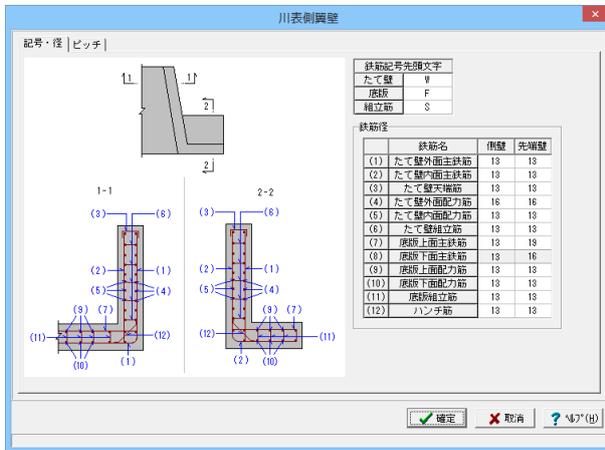
鉄筋ピッチ(たて壁組立筋):「主鉄筋間隔」には配置する主鉄筋の間隔、「配力筋間隔」には配置する配力筋の間隔を指定します。組立筋はそれらの間隔で配置されます。「配置方法」では「千鳥状」に位置するか「格子状」に位置するかを指定します。

鉄筋ピッチ(底板組立筋):「主鉄筋間隔」には配置する主鉄筋の間隔、「配力筋間隔」には配置する配力筋の間隔を指定します。組立筋はそれらの間隔で配置されます。「囲み間隔」には組立筋が囲む主鉄筋の間隔数を指定します。「配置方法」では「千鳥状」に位置するか「格子状」に位置するかを指定します。「形状」では鉄筋形状を「上開き筋」にするか「下開き筋」にするかを指定します。

## 6-5 川表(裏)側翼壁



川表(裏)翼壁の簡易鉄筋情報を指定します。

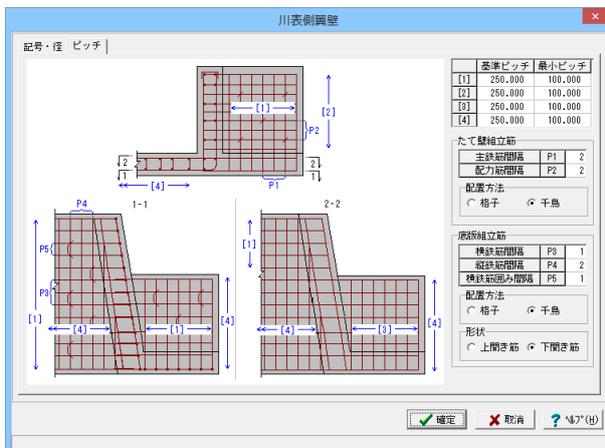


記号・径  
鉄筋記号先頭文字

たて壁	W
底板	F
組立筋	S

鉄筋径

鉄筋名	側壁	先端壁
(1)たて壁外面主鉄筋	13	13
(2)たて壁内面主鉄筋	13	13
(3)たて壁天端筋	13	13
(4)たて壁外面配力筋	16	16
(5)たて壁内面配力筋	13	13
(6)たて壁組立筋	13	13
(7)底板上面主鉄筋	13	19
(8)底板下面主鉄筋	13	16
(9)底板上面配力筋	13	13
(10)底板下面配力筋	13	13
(11)底板組立筋	13	13
(12)ハンチ筋	13	13



ピッチ

	基準ピッチ	最小ピッチ
(1)	250	100
(2)	250	100
(3)	250	100
(4)	250	100

たて壁組立筋

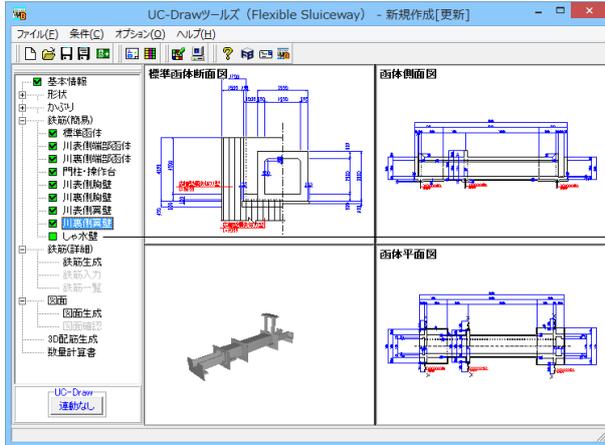
主鉄筋間隔 P1	2
配力筋間隔 P2	2
配置方法	千鳥

底板組立筋

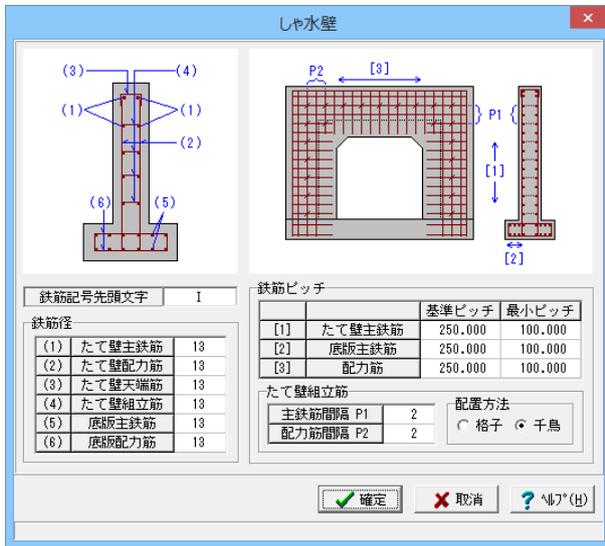
主鉄筋間隔 P3	1
配力筋間隔 P4	2
主鉄筋囲み間隔 P5	1
配置方法	千鳥
形状	下開き筋

※各タブの詳細につきましては6-4川表(裏)側胸壁を参照して下さい。

6-6 しゃ水壁



しゃ水壁に配筋する鉄筋の情報を入力します。



鉄筋記号先頭文字:i

鉄筋記号先頭文字を指定します。鉄筋記号は、指定された先頭文字(アルファベット)に番号(数字)をカウントアップしながら付加していく方法で自動付けされます。「鉄筋記号先頭文字」には、先頭文字に使用するアルファベット(A~Z)を指定します。

鉄筋径

(1)たて壁主鉄筋	13
(2)たて壁配力筋	13
(3)たて壁天端筋	13
(6)たて壁組立筋	13
(7)底板主鉄筋	13
(8)底板配力筋	13

各鉄筋径を指定します。

鉄筋ピッチ

	基準ピッチ	最小ピッチ
(1)たて壁主鉄筋	250	100
(2)底板主鉄筋	250	100
(3)配力筋	250	100

各鉄筋の配筋情報生成に使用する基準ピッチと最小ピッチを指定します。

たて壁組立筋

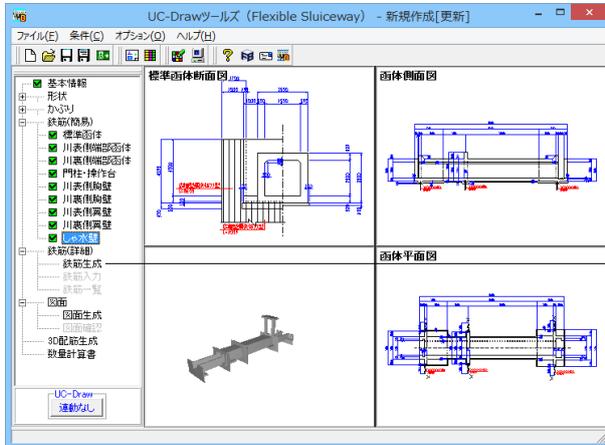
主鉄筋間隔 P1	2
配力筋間隔 P2	2
配置方法	千鳥

主鉄筋間隔」には配置する主鉄筋の間隔、「配力筋間隔」には配置する配力筋の間隔を指定します。組立筋はそれらの間隔で配置されます。「配置方法」では「千鳥状」に位置するか「格子状」に位置するかを指定します。

## 7 詳細鉄筋情報入力

配筋図を生成するための各鉄筋の詳細鉄筋情報の生成を行います。

### 7-1 鉄筋生成



メイン画面左側の「鉄筋（詳細）」－「鉄筋生成」をクリックしてください。各鉄筋の詳細鉄筋情報が生成されます。

### 7-2 詳細鉄筋情報の確認・修正

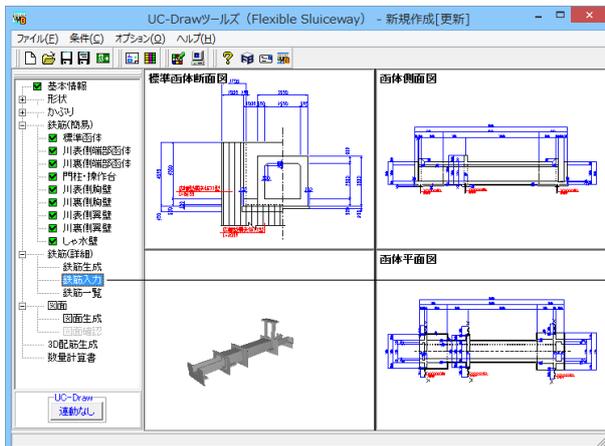
生成された各鉄筋の情報を「鉄筋入力」または「鉄筋一覧」から確認、修正を行ってください。

本データでは修正は行いませんので、データの確認のみ行ってください。

※「鉄筋（詳細）」－「鉄筋生成」で詳細鉄筋情報の生成を行うと、それ以前に入力・修正した詳細鉄筋情報は破棄されますのでご注意ください。

※「鉄筋（詳細）」－「鉄筋入力」にて簡易鉄筋情報から生成された詳細鉄筋情報の変更が行えますが、その変更結果は簡易鉄筋情報には反映されませんのでご注意ください。

### 鉄筋入力



メイン画面左側の「鉄筋（詳細）」－「鉄筋入力」をクリックします。下記の「鉄筋入力」画面が表示されます。「鉄筋情報」から必要な部分の編集を行ってください。

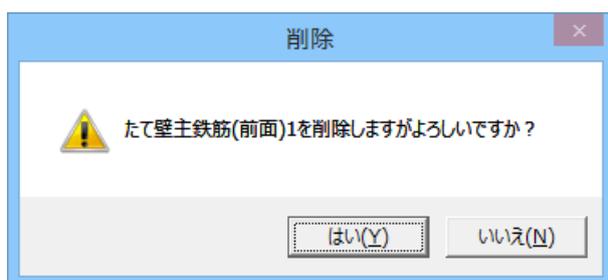


作図鉄筋の追加  
 [鉄筋入力]ー「鉄筋情報」で配置する鉄筋が含まれるグループ名称をクリックします。画面右側の[鉄筋一覧]に配筋図に作図される鉄筋が表示されます。[鉄筋グループ名称一覧]から配置する鉄筋が含まれるグループ名称をクリックします。  
 [鉄筋一覧]の「追加」をクリックします。選択された鉄筋の鉄筋情報入力画面が表示されますのでデータを入力し、「確定」ボタンを押してください。各入力項目については、製品ヘルプをご覧ください。



入力済み鉄筋の削除  
 ※削除した鉄筋の復活はできませんので注意してください。

「鉄筋選択画面」の[鉄筋一覧]から削除する鉄筋をクリックします。「削除」ボタンを押してください。



確認メッセージが表示されますので、「はい」を押してください。[鉄筋一覧]から指定した鉄筋が削除されます。

## 鉄筋一覧

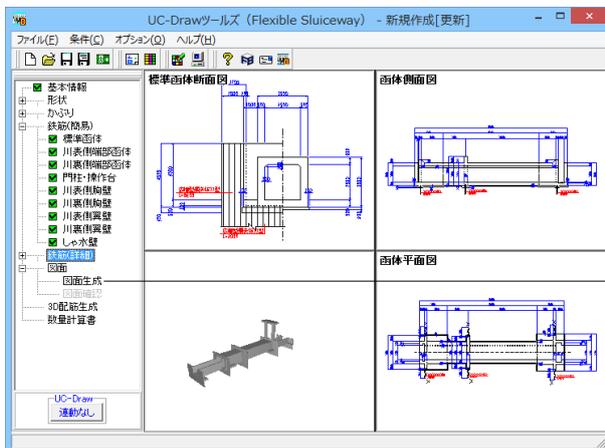
鉄筋一覧						
鉄筋種類	記号1	径1	記号2	径2	記号3	径3
横方向主鉄筋A	----	----				
横方向主鉄筋C	----	----				
縦方向主鉄筋(簡版)1	S3	32	SS	29		
縦方向主鉄筋(簡版)1	F5	29	F3	32		
縦方向主鉄筋(左側壁)1	W2	18	W2	18		
縦方向主鉄筋(右側壁)1	W2	18	W2	18		
組立筋(簡版)1	S8	18				
組立筋(簡版)1	F8	18				
組立筋(左側壁)1	W4	18				
組立筋(右側壁)1	W5	18				

「鉄筋一覧」から任意の項目を選択し、鉄筋情報を編集することも可能です。

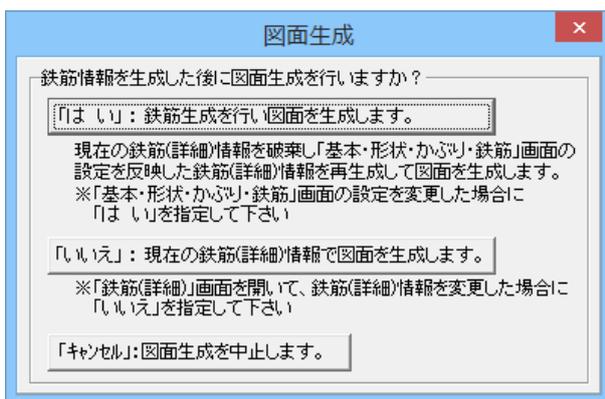
※各入力項目については、製品ヘルプをご覧ください。

## 8 図面生成

配筋図から加工図・鉄筋表などの全図面を一括生成します。

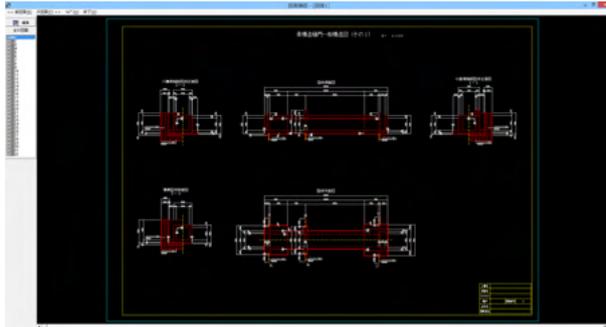


メイン画面左側の「図面」→「図面生成」をクリックしてください。下記の確認メッセージが表示されますので、目的に応じて選択してください。本データでは「はい」を押してください。今回は全ての鉄筋情報を再生成します。



- ・「はい」・・・現在の形状・かぶり・鉄筋(簡易)から詳細鉄筋情報を再生成してその情報より図面生成を行います。
- ・「いいえ」・・・詳細鉄筋情報の再生成は行わず、現在の詳細鉄筋情報より図面生成を行います。
- ・「キャンセル」・・・図面生成を中止します。

※メインメニュー「条件」→「図面生成条件」の「図面生成時のレイアウト確認・修正」が「する」と設定されている状態で図面生成を行うと、生成実行中に「レイアウト確認・修正」用の画面が表示されますので、必要に応じ図形の配置図面の変更や作図位置の変更などの図面レイアウトの調整を行ってください。

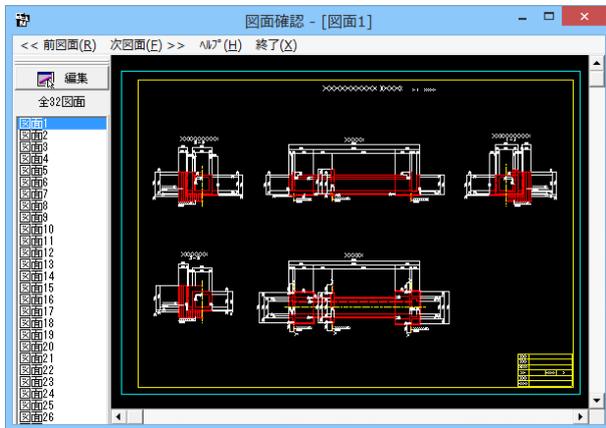


図面生成が終了すると、「図面確認」画面が表示されます。ここで図面の確認、編集、印刷等が行えます。

※鉄筋詳細情報で修正した内容が図面に反映されていない。  
(Q1-3-6参照)

<https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-sluiuceqa.htm#q1-3-6>

## 8-1 図面表示



「図面確認」画面は「表示モード」で起動し、「選択ウィンドウ」と「図面ウィンドウ (表示モード用)」が表示されます。図面確認を終了する場合は、メニュー「終了」をクリックしてください。

### ◆図面の切替

図面が複数ある場合、「選択ウィンドウ」で表示したい図面をクリックするか、または「図面確認」画面メニューの「<<前図面(R)」、「次図面(F)>>」をクリックすることで、各図面を表示することができます。

### ◆図面の表示

#### <拡大表示>

拡大表示したい領域を囲む矩形の隅点をクリックで指定し、ドラッグしたまま対角にある隅点までマウスを移動し、ドラッグを解除します。矩形で指定した領域が拡大表示されます。

#### <図面全体表示>

拡大表示している図面ウィンドウ内で右クリックします。図面全体を表示する図面表示に戻ります。

#### <表示領域の移動>

図面ウィンドウの右側および下側のスクロールバーまたはキーボードの「↑・↓」「→・←」キーの押下で上下左右に表示領域が移動します。

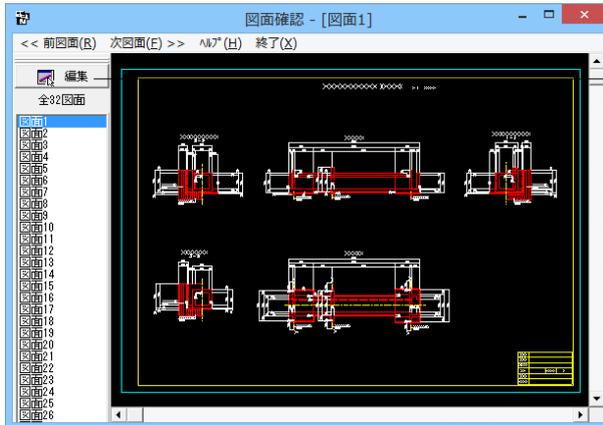
※スクロールマウスを使用していた場合、ホイールによる拡大・縮小表示および表示領域の移動が行えます。

拡大：ホイールを前方向に回転

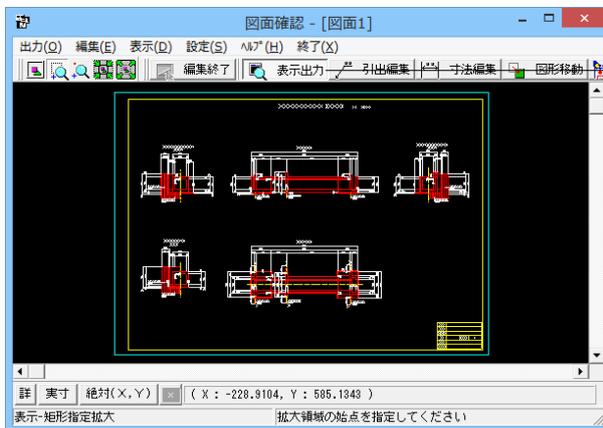
縮小：ホイールを後方向に回転

移動：ホイールを押したままでのドラッグ

## 8-2 図面表示



「選択ウィンドウ」で編集したい図面を選択して「図面ウィンドウ (表示モード用)」に表示させた後、「選択ウィンドウ」の「編集」ボタンをクリックします。



「編集モード」に移行し、「図面ウィンドウ (編集モード用)」に切り替わりますので、編集用のメニューを選択して図形・寸法線・引出線の移動を行います。詳しい編集方法は次ページ以降を参照してください。なお、「表示モード」へは、「図面ウィンドウ (編集モード用)」の「編集終了」ボタンクリックで戻ります。

### 図面の表示(編集モード)



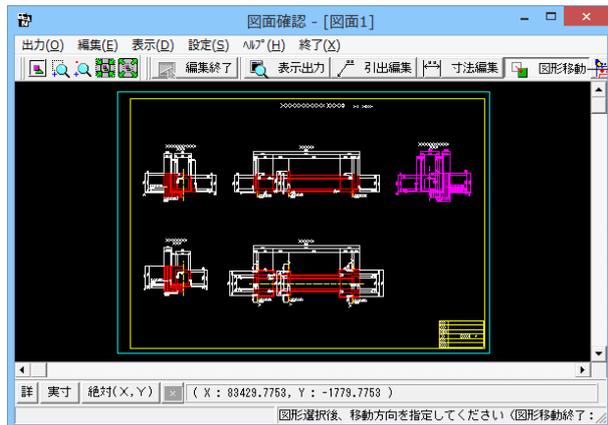
「表示」メニューまたはツールバーのボタン等にて拡大表示や図面全体表示が行えます。編集作業中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので必要に応じて操作して下さい。

#### <マウス操作>

スクロールマウスを使用していた場合、ホイールによる拡大・縮小表示が行えます。

- ① 拡大: ホイールを前方向に回転
- ② 縮小: ホイールを後方向に回転

図面移動



メニュー「編集」－「モード選択」－「図形移動モード」またはツールバーの「図形移動」ボタンをクリックします。図形選択待ち状態になります。移動したい図形を「クリック指定」、または、「ドラッグによるBOX指定」で選択します。選択された図形は選択状態表示に変わります。

「編集」－「任意移動」、「垂直移動」または「水平移動」メニューを選択します。マウスカーソルが変わり、移動基準点待ち状態になります。クリックで移動する図形の基準点を指定します。指定後、マウスカーソルは元の状態に戻ります。クリックで移動先を指定すると、指定された位置に図形が移動します。移動後は、マウスカーソルが変わり、移動基準点待ち状態に戻ります。右クリックで移動処理が終了し、の図形選択待ち状態に戻ります。

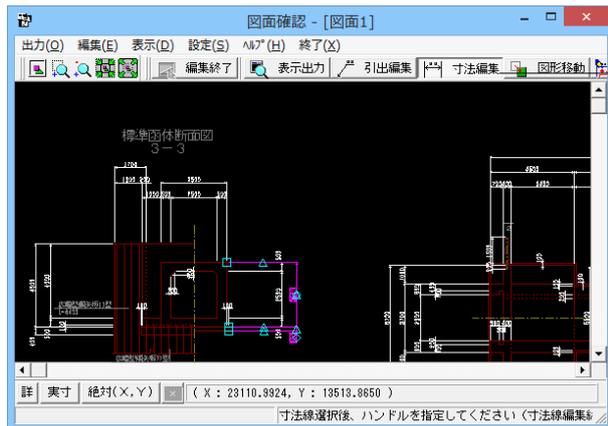
※図形選択では、同じ縮尺の図形のみ複数選択が行えます。異なる縮尺の図形は一度に選択できませんので、別々に移動してください。

※1つ1つ図形を選択する場合は「クリック指定」で、複数の図形をまとめて選択する場合は「ドラッグによるBOX指定」で選択してください。なお、「ドラッグによるBOX指定」の場合、少しでもBOX (矩形) に掛かる全ての図形が移動対象として選択されます。

※図形選択をShift キーやCtrl キーのキーボードとの併用で行うと、追加選択や選択解除などの選択方法の変更が行えます。

※図形移動モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながらの図形移動が行えます。(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合は、マウスを右クリックしてください。)

※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」－「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リドゥ」は「編集」－「リドゥ」メニューで行えます。



「編集」－「モード選択」－「寸法線編集モード」または「寸法編集」ボタンをクリックします。寸法線以外の要素がトーンダウン表示に変わり、寸法線選択待ち状態になります。編集したい寸法線を「クリック指定」で選択します。選択された寸法線は選択状態表示に変わります。

編集するハンドルをクリックで選択します。ハンドルの表示状態が変わります。

ハンドルとは、選択状態に指定された寸法線や引出線に表示される矩形マークのことです。

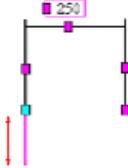
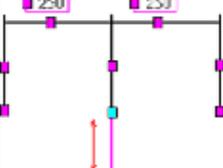
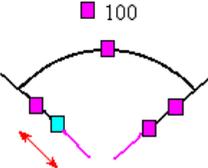
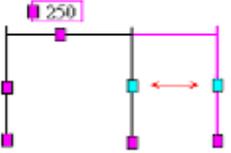
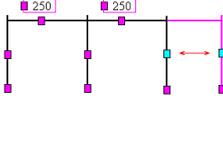
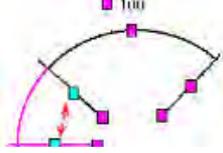
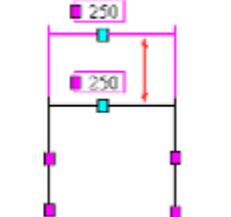
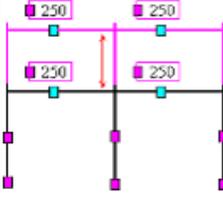
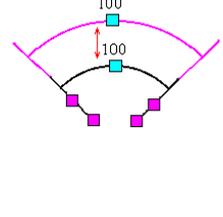
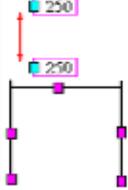
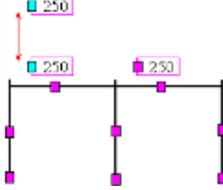
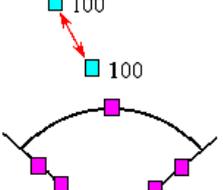
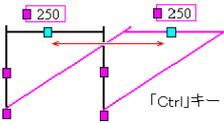
※水色の□マークがハンドルです。

マウスカーソルを編集先に移動してクリックします。編集後は、の寸法線選択待ち状態に戻ります。

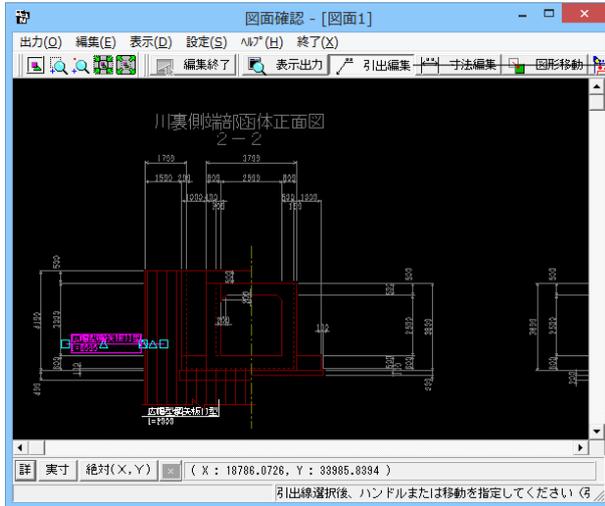
※寸法線編集モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながら寸法線編集が行えます。(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合はマウスを右クリックして下さい。)

※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」－「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リドゥ」は「編集」－「リドゥ」メニューで行えます。

ハンドル操作による編集は寸法線やハンドルの種類によって変わります。具体的な操作は以下を参照してください。

平行寸法線	複数平行寸法線	弧長寸法線
<p>◆引出点移動 引出部の端点(引出点)のハンドルを選択し、引出点を伸縮します。</p>		
		
<p>◆引出部移動 引出部の中央のハンドルを選択し、引出部を表示部方向に移動します。移動先の指定後に寸法値(文字列)変更のウィンドウが開きますので、表記する寸法値の確認・修正が行えます。</p>		
		
<p>◆表示部移動 表示部の中央のハンドルを選択し、表示部を引出部方向に移動します。</p>		
		
<p>※: 編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。</p>	<p>※: 編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。</p>	
<p>◆表示文字移動 表示文字のハンドルを選択し、文字列全体を移動します。寸法線で表示部のハンドルと表示文字のハンドルが重なっている場合、「Shift」キーを押しながらマウス左クリックすると表示文字のハンドルが優先して選択されます。</p>		
		
<p>※: 編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。</p>	<p>※: 編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。</p>	
<p>◆斜め移動 表示部の中央のハンドルを選択し、この状態で「Ctrl」キーを押しながら引出部を伸縮します。なお、マウスカーソルが表示部の両端より外に出た場合、その斜め方向に伸縮します。</p>		
		

引出線編集



「編集」－「モード選択」－「引出線編集モード」または「引出編集」ボタンをクリックします。引出線以外の要素がトーンダウン表示に変わり、寸法線選択待ち状態になります。編集したい引出線を「クリック指定」で選択します。選択された引出線は選択状態表示に変わります。

編集するハンドルをクリックで選択します。ハンドルの表示状態が変わります。ハンドルとは、選択状態に指定された寸法線や引出線に表示される矩形マークのことです。  
※水色の□マークがハンドルです。

マウスカーソルを編集先に移動してクリックします。移動後は、の引出線選択待ち状態に戻ります。

◆メニュー選択による編集

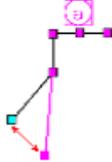
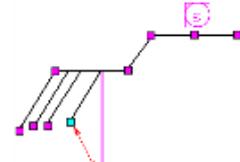
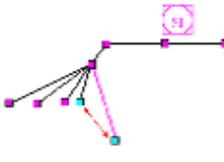
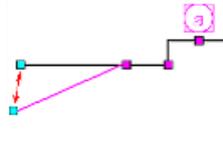
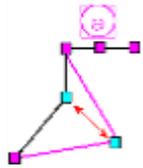
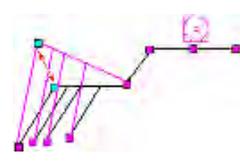
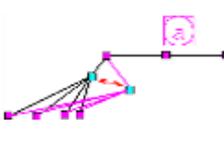
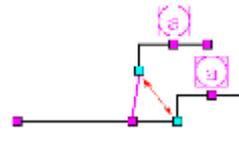
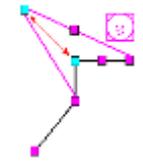
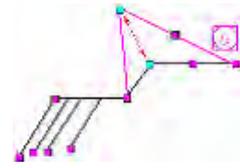
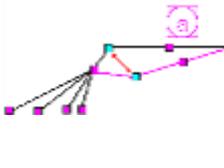
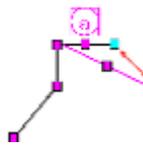
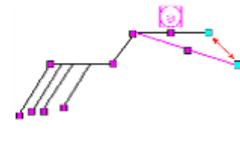
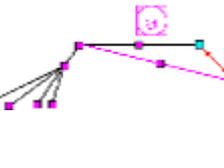
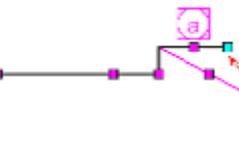
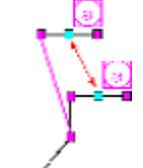
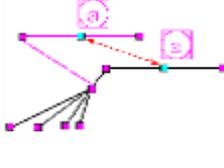
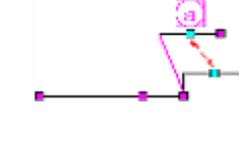
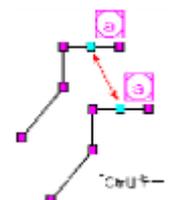
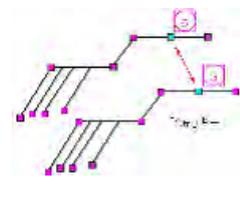
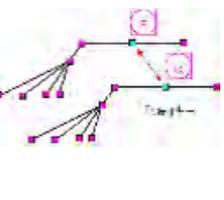
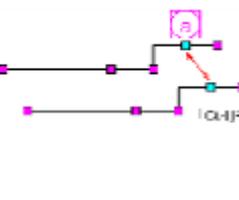
「編集」－「任意移動」メニューを選択します。マウスカーソルがになり、移動基準点待ち状態になります。クリックで移動する引出線の基準点を指定します。指定後、マウスカーソルは元の状態に戻ります。クリックで移動先を指定すると、指定された位置に引出線全体が移動します。移動後は、移動基準点待ち状態に戻ります。右クリックで移動処理が終了し、引出線選択待ち状態に戻ります。

※「複数直線引出線」の場合、右クリックで表示される「ポップアップメニュー」での引出線編集が行えます。

※引出線編集モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながらの引出線編集が行えます。（「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合はマウスを右クリックして下さい。）

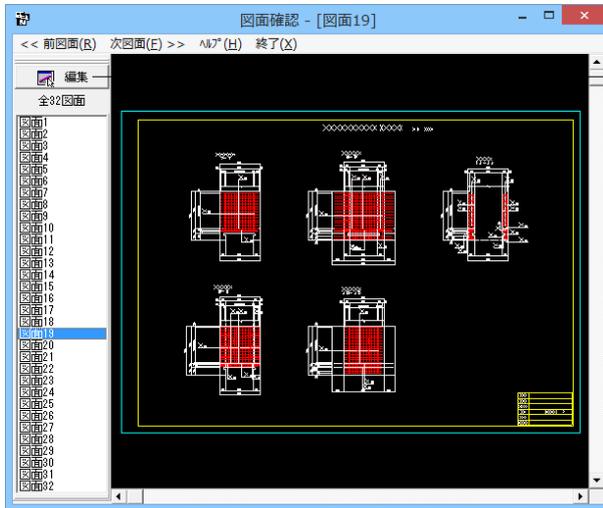
※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」－「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リドゥ」は「編集」－「リドゥ」メニューで行えます。

ハンドル操作による編集は引出線やハンドルの種類によって変わります。具体的な操作は以下を参照してください。

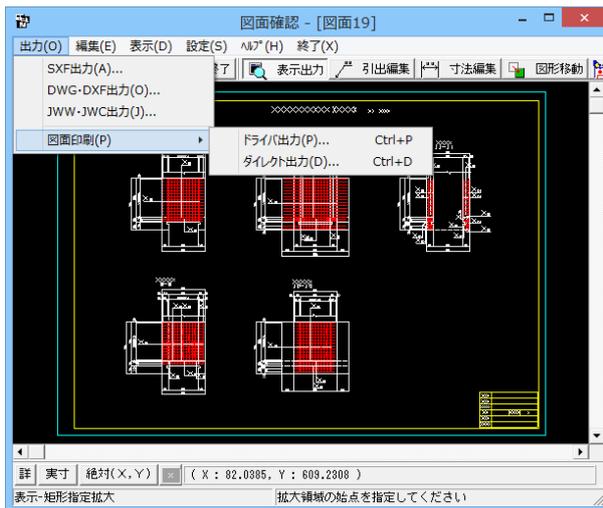
単点引出線	複数点くし型引出線	複数点ほうき型引出線	複数直線引出線
◆引出点移動 引出部の端点(引出点)のハンドルを選択し、引出点を移動します。			
 <p>※編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。</p>			 <p>※編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。</p>
◆引出部移動 引出部のハンドルを選択し、引出部を移動します。編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。			
			
◆表示部始点移動 表示部の始点のハンドルを選択し、表示部終点を移動します。編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。			
			
◆表示部終点移動 表示部の終点のハンドルを選択し、表示部終点を移動します。なお、編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。			
			
◆表示部全体移動 表示部の中央のハンドルを選択し、表示部全体を移動します。なお、表示部の角度は保持されます。			
			
◆全体移動 表示部の中央のハンドルを選択し、この状態で「Ctrl」キーを押しながら引出線全体を移動します。なお、編集先座標指定時に「Shift」キーを併用すると、指定点の動きがマウスの位置により垂直または水平に固定されます。			
 <p>Ctrlキー</p>	 <p>Ctrlキー</p>	 <p>Ctrlキー</p>	 <p>Ctrlキー</p>

### 8-3 図面出力

図面をファイル (SXF ファイル・DWG ファイル・DXF ファイル・JWW ファイル・JWC ファイル) やプリンタ・プロッタへ出力します。

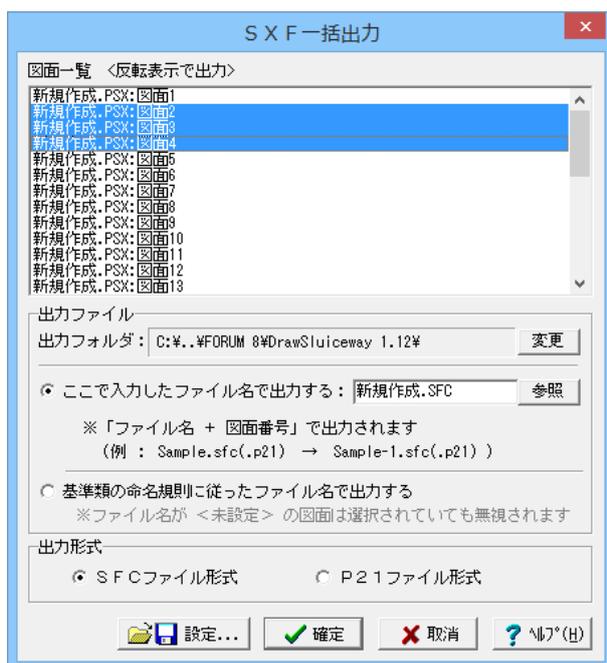


図面出力は、編集モードに移行して行います。「選択ウィンドウ」の「編集」ボタンをクリックしてください。(すでに編集モードになっている場合は、この操作は不要です。)



「編集モード」に移行し、「図面ウィンドウ (編集モード用)」に切り替わりますので、「出力」メニューを選択して図面の出力を行ってください。なお、「表示モード」へは、「図面ウィンドウ (編集モード用)」の「編集終了」ボタンクリックで戻ります。

## ファイル出力



以下はSXF 出力の方法になりますがDWG・DXF ファイル・JWW・JWC ファイルへの出力も方法は同様です。

「出力」-「SXF 出力」メニューを選択すると、「SXF 一括出力」画面が表示されます。「図面一覧」でファイル出力(保存)する図面をクリックして選択します。

※図面は複数選択が可能です。

複数図面の選択は、「Shift」キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。

・「Shift」キー+マウス：すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。

・「Ctrl」キー+マウス：指定した図面のみの選択状態を変更します。

「出力フォルダ」でSXF ファイルの出力先フォルダを指定します。「変更」ボタンをクリックすると「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されますので、出力(保存)先フォルダを指定してください。

ファイル名称を指定してください。「ここで指定したファイル名で出力する」か「基準類の命名規則に従ったファイル名で出力する」かを選択してください。なお、「ここで指定したファイル名で出力する」を選択した場合はファイル名称も入力してください(「参照」ボタンをクリックすると「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存するファイルの指定が行えます)。

※「ここで指定したファイル名で出力する」場合、実際に保存するファイルの名称は「入力されたファイル名に番号を付加したもの」になります。

※「基準類の命名規則に従ったファイル名で出力する」場合、メニュー「設定」-「図面設定」の「ファイル名付け」で指定された名称で出力します。

保存するファイル形式を指定します。

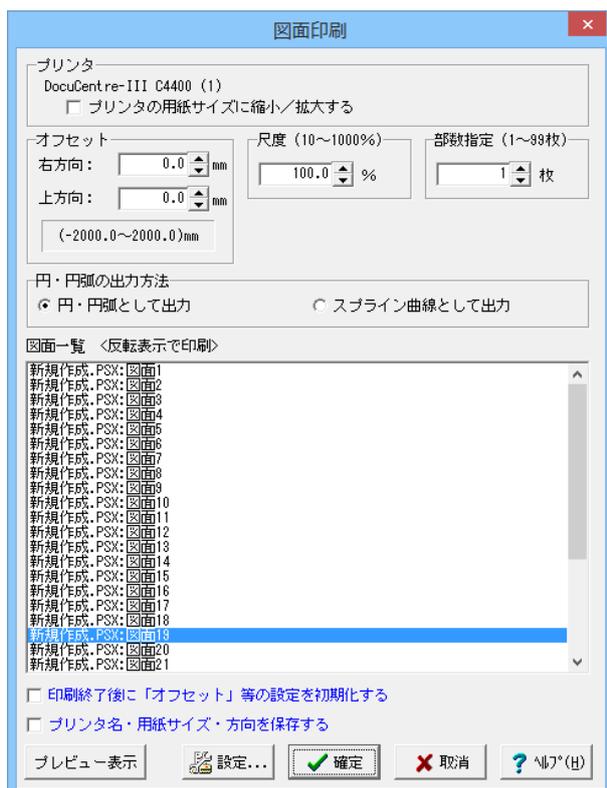
「設定」ボタンをクリックすると、「SXF 出力の設定」画面が表示されますので、出力時の各種条件の設定を行います。

※生成した図面をSXF形式(電子納品用図面形式)で出力したいが、OCF検定に合格しているか?

(Q1-2-6参照)

<https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-sluicewa.htm#q1-2-6>

## 図面印刷-ドライバ出力



メニュー「出力」-「図面印刷」-「ドライバ出力」を選択すると、下記の画面が表示されます。

「プリンタ」には、現在の出力先を表示します。また、図面サイズが印刷する用紙と違う場合、「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」をチェックすると、印刷する用紙にあわせて図面全体を縮小/拡大して印刷します。出力先の変更は、画面下部の「設定...」ボタンをクリックして標示される「プリンタの設定」ダイアログで行えます。

「オフセット」「尺度」「部数指定」「円・円弧の出力方法」を設定します。

「図面一覧」で印刷する図面を選択します。

※図面は複数選択が可能です。複数図面の選択は、「Shift」キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。

・「Shift」キー+マウス：すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。

・「Ctrl」キー+マウス：指定した図面のみの選択状態を変更します。

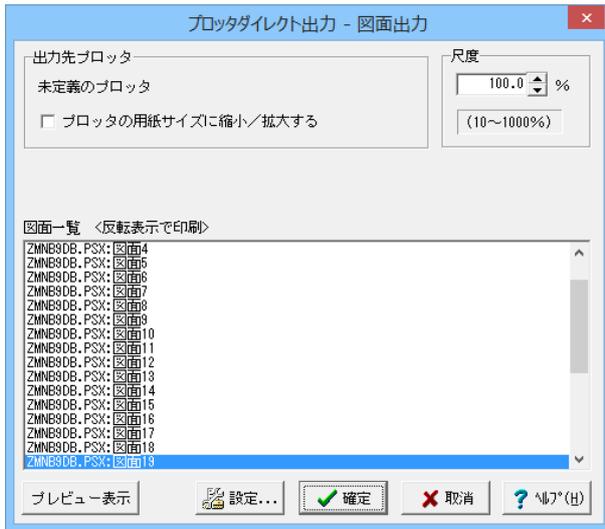
印刷イメージを確認したい場合は、画面下部の「印刷プレビュー」ボタンを押してください。

※生成した図面をPDFファイルに出力することができますか?

(Q1-2-14参照)

<https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-sluicewa.htm#q1-2-14>

ダイレクト出力



メニュー「出力」-「図面印刷」-「ダイレクト出力」を選択すると、下記の画面が表示されます。

「出力先プロッタ」には、現在の出力先が表示されます。図面サイズが印刷する用紙と違う場合、「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」をチェックすると、印刷する用紙にあわせて図面全体を縮小/拡大して印刷します。

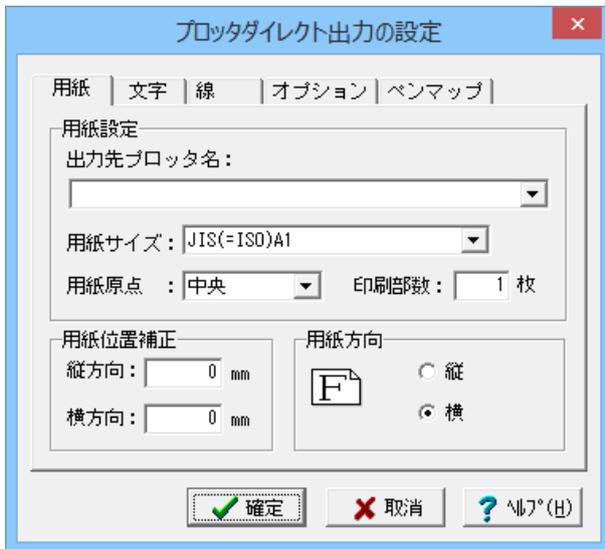
「尺度」を設定します。

「図面一覧」で印刷する図面を選択します。

※図面は複数選択が可能です。複数図面の選択は、「Shift」キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。

・「Shift」キー+マウス：すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。

・「Ctrl」キー+マウス：指定した図面のみを選択状態を変更します。

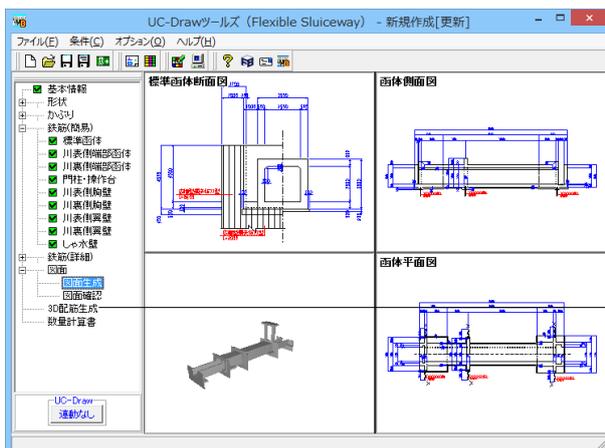


印刷イメージを確認したい場合は、画面下部の「印刷プレビュー」ボタンを押してください。画面下部の「設定...」ボタンを押すと、左の画面が表示され諸条件を設定できます。

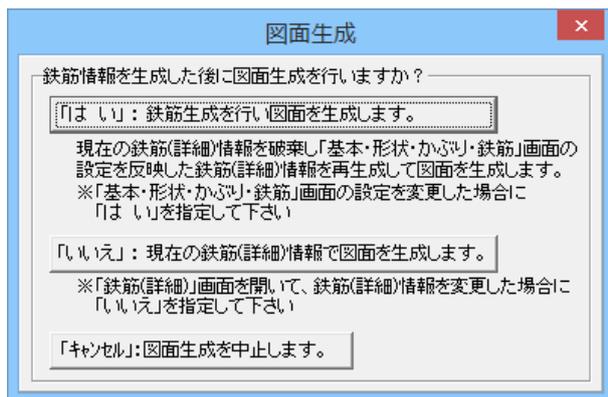
9 3D配筋生成

「3D配筋生成」を押下することで、3次元の配筋生成を実行し、3D配筋ビューアによる表示を行います。

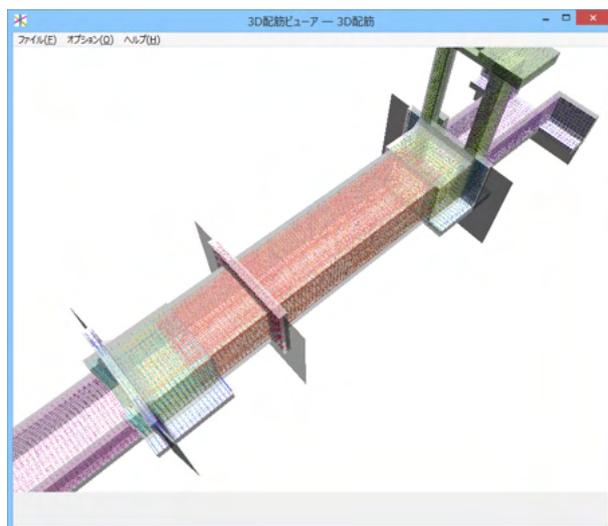
※UC-Draw ツールズでの操作に戻る場合は、「ファイル (F)」-「終了 (X)」を選択してください。



メイン画面左側の「3D配筋」をクリックしてください。下記の確認メッセージが表示されますので、目的に応じて選択してください。本データでは「はい」を押してください。



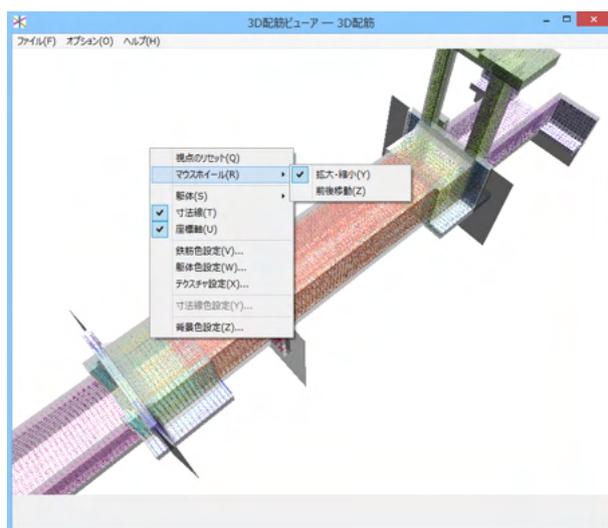
- ・「はい」・・・現在の形状・かぶり・鉄筋(簡易)から詳細鉄筋情報を再生成してその情報より図面生成を行います。
- ・「いいえ」・・・詳細鉄筋情報の再生成は行わず、現在の詳細鉄筋情報より図面生成を行います。
- ・「キャンセル」・・・図面生成を中止します。



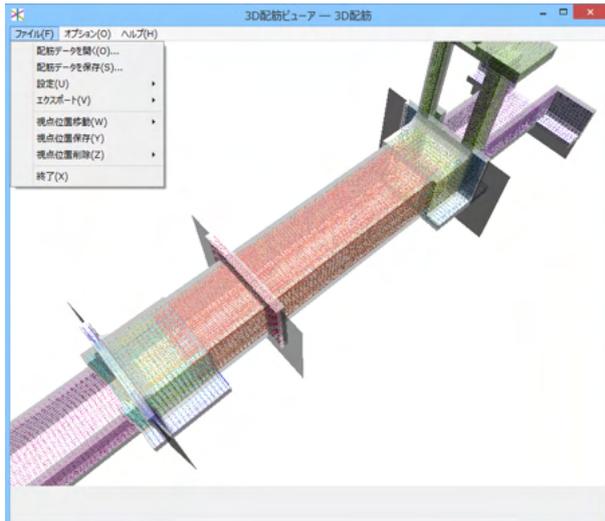
3D配筋ビューアーが立ち上がります。

## 9-1 視点位置

### 視点の保存

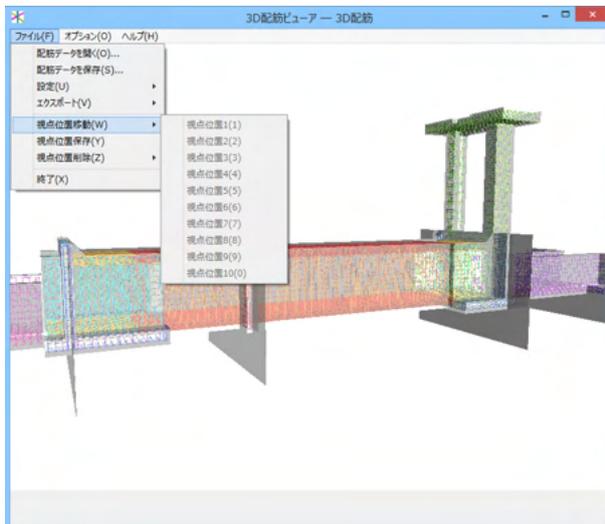


マウス操作で保存したい視点にしておきます。  
 ※右クリック「マウスホイール(R)」で、拡大縮小か前後移動かホイールでの挙動を選択できます。  
 ※右クリック「視点のリセット」で視点を初期位置に戻します。



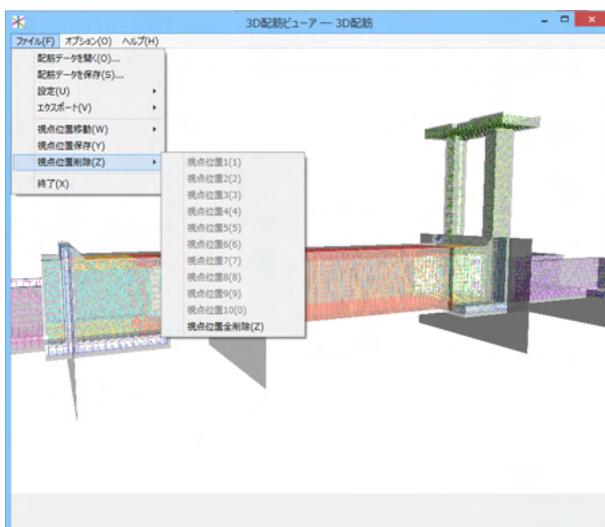
「ファイル(F)」-「視点位置保存(Y)」を押すと視点を保存します。

保存した視点位置への移動



視点を保存します。  
「ファイル(F)」-「視点位置移動(W)」をクリックすることで保存した順番に番号が割り振られていますので保存した視点位置へ移動することができます。  
※視点は10以上の保存ができませんので、不要な視点位置は削除してご使用ください。

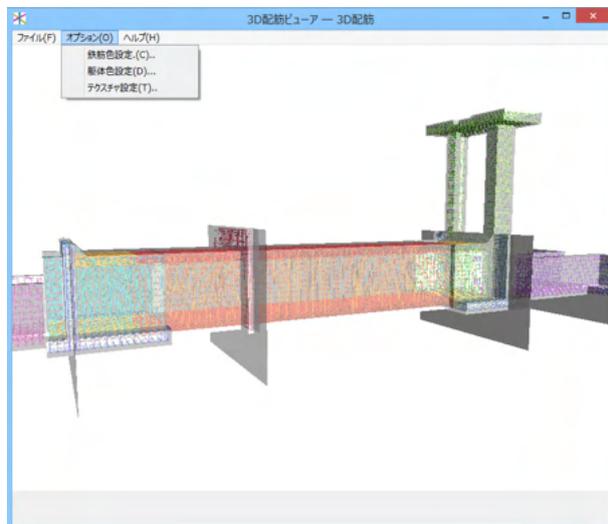
視点位置の削除



「ファイル(F)」-「視点位置削除(Z)」より、任意またはすべての視点位置を削除することができます。

## 9-2 オプション

### 鉄筋色の設定



鉄筋の色を任意に変更することができます。「オプション (O)」-「鉄筋色設定 (C)」をクリックします。編集が終わったら「確定」ボタンを押してください。

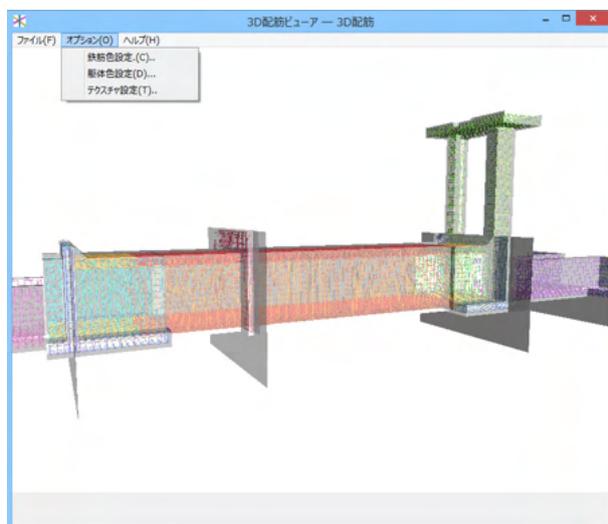
部材名	鉄筋径	鉄筋色	継手色
躯体1 縦方向主鉄筋(間版)	32	赤	
躯体1 組立筋(間版)	13	赤	
躯体1 縦方向主鉄筋(底板)	32	赤	
躯体1 組立筋(底板)	13	赤	
躯体1 縦方向主鉄筋(左側壁)	13	赤	
躯体1 縦方向主鉄筋(右側壁)	13	赤	
躯体1 組立筋(左側壁)	13	赤	
躯体1 組立筋(右側壁)	13	赤	
躯体1 ハンチ筋(ハンチ筋)	13	赤	
躯体1 横方向主鉄筋A	19	赤	
躯体1 横方向主鉄筋A	22	赤	
躯体1 横方向主鉄筋C	19	赤	
躯体1 横方向主鉄筋C	22	赤	
躯体1 内面主鉄筋	19	赤	
躯体1 内面主鉄筋	13	赤	
縦方向主鉄筋(間版)	32	赤	
川表端部 組立筋(間版)	13	赤	
縦方向主鉄筋(底板)	32	赤	
川表端部 組立筋(底板)	13	赤	
川表端部 縦方向主鉄筋(左側壁)	13	赤	
川表端部 縦方向主鉄筋(右側壁)	13	赤	
川表端部 組立筋(左側壁)	13	赤	
川表端部 組立筋(右側壁)	13	赤	
川表端部_ゲート部横鉄筋(間版)	19	赤	

鉄筋径で選択

確定 取消 ヘルプ

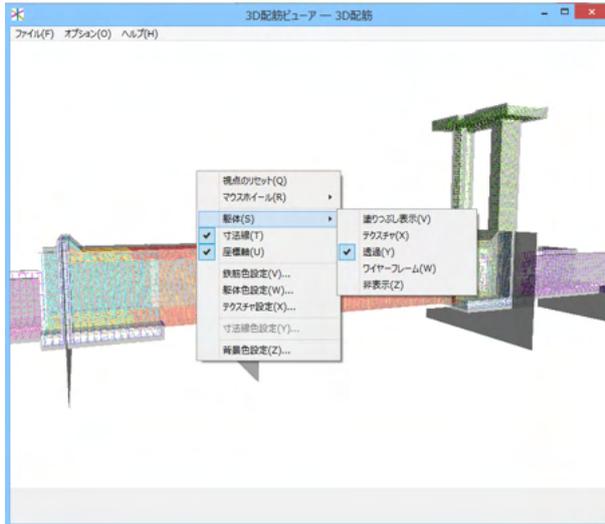
※「鉄筋径で選択」のチェックボックスに✓を入れると、同じ径の鉄筋の色をまとめて設定することができます。

### 躯体色の設定



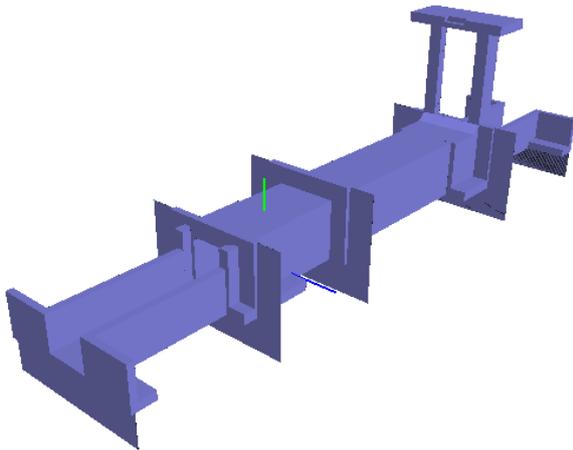
躯体の色を任意に変更することができます。「オプション (O)」-「躯体色設定 (C)」をクリックします。色設定ウインドウで、任意の躯体の躯体色をクリックして編集します。



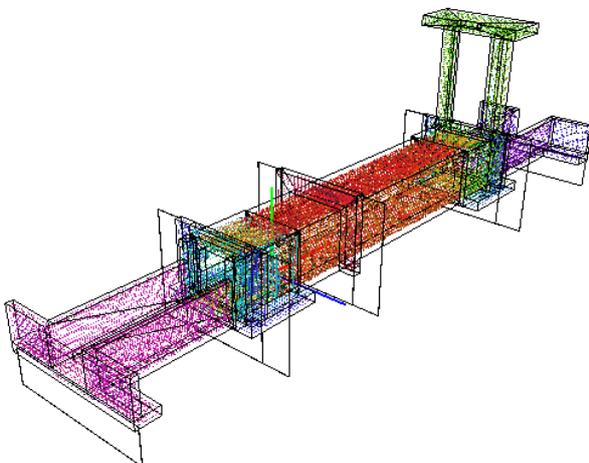


※躯体の表示は、右クリック「躯体 (S)」から変更することができます。

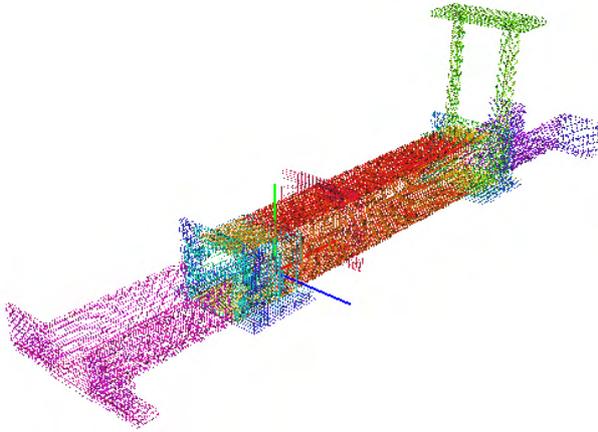
塗りつぶし表示



ワイヤーフレーム

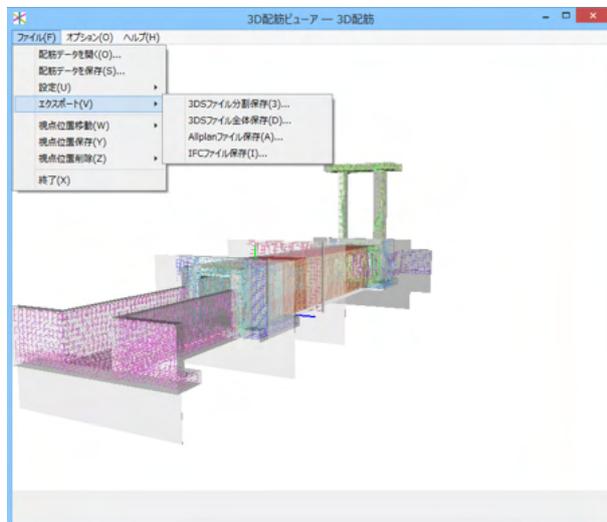


非表示



※テクスチャを選択する場合は「オプション (O)」-「テクスチャ設定(T)」からビットマップ形式の画像を読み込むことができます。

### 9-3 エクスポート



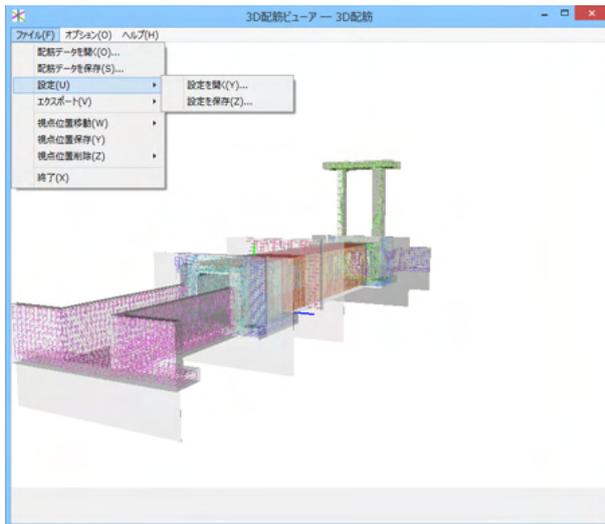
**3DSファイル分割保存**：表示されている鉄筋、躯体の3D形状ファイルを保存します。ファイル形式は3DSファイルです。ファイルは、大きなグループごとに分割して保存されます。

**3DSファイル全体保存**：表示されている鉄筋、躯体の3D形状ファイルを保存します。ファイル形式は3DSファイルです。ファイルは、全てのデータをひとつに保存します。

**Allplanファイル保存**：表示されている鉄筋、躯体の3D形状ファイルを保存します。ファイル形式はaファイルです。

**IFCファイル保存**：表示されている鉄筋、躯体の3D形状ファイルを保存します。ファイル形式はifcファイルです。

## 9-4 設定

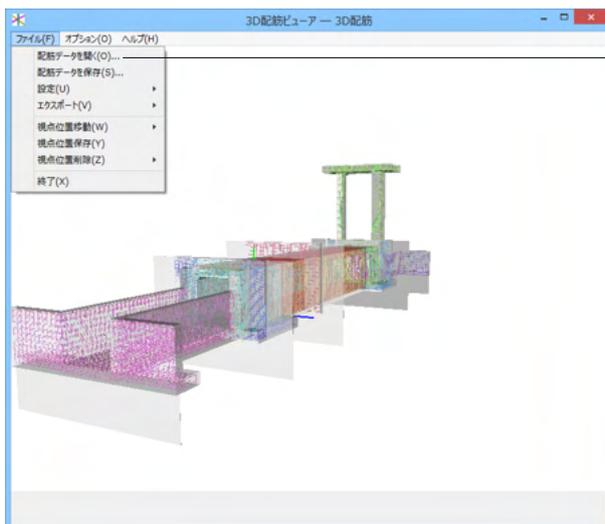


**設定を開く**：表示領域の表示状態の設定を開きます。ファイルの拡張子は、confです。

**設定を保存**：表示領域の表示状態の設定を保存します。視点位置も保存されます。

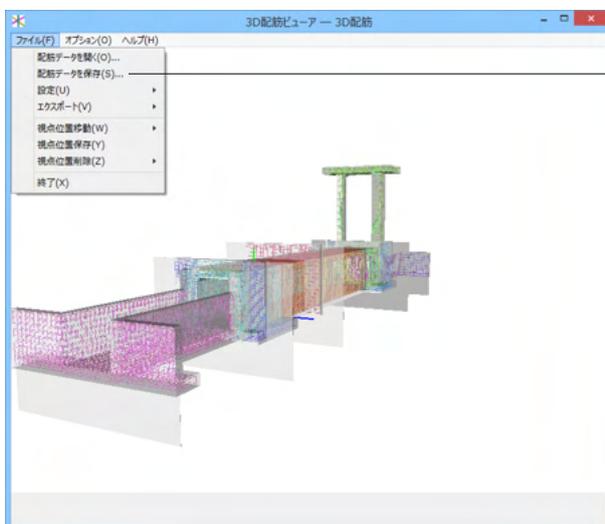
## 9-5 開く、保存、終了

配筋データを開く



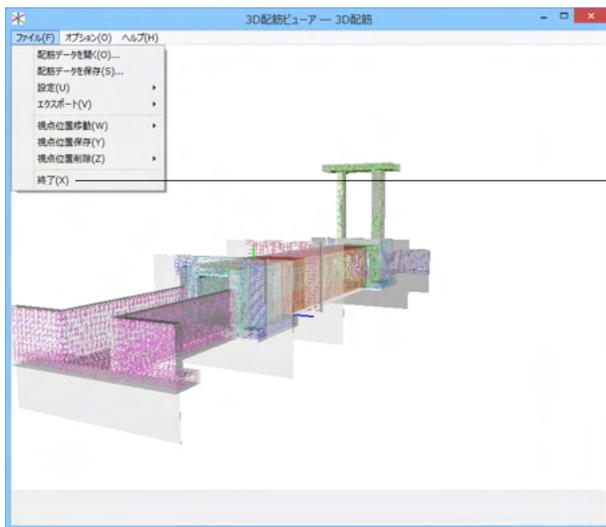
配筋データファイルを読み込みます。ファイルの拡張子は、rfvです。

配筋データを保存



配筋データファイルを読み込みます。ファイルの拡張子は、rfvです。

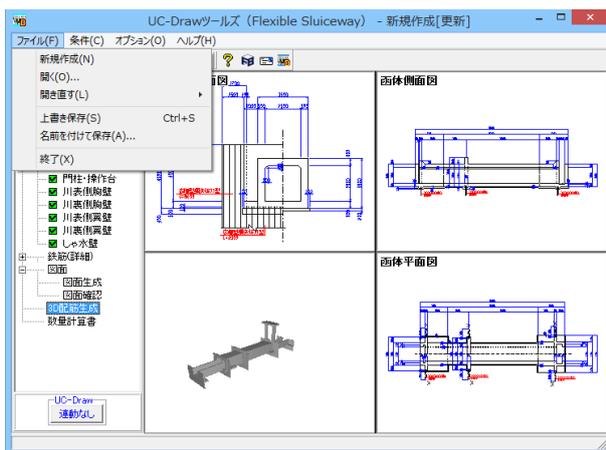
終了



本ビューアを終了します。  
 ※UC-Draw ツールズでの操作に戻る場合は、こちらで3D配筋ビューアを終了してください。

## 10 ファイル保存

現在作業中の作図基本データと図面データをメニュー「ファイル」－「名前を付けて保存」または「上書き保存」でファイルに保存します。



### ◆ファイル | 名前を付けて保存

現在作業中の入力データと図面データを指定された名称で保存します。「名前を付けて保存」を選択すると、ファイル選択ウィンドウが開きますので、ファイルを保存する場所を指定し、「ファイル名」欄に任意のファイル名を入力して「保存」ボタンを押してください。

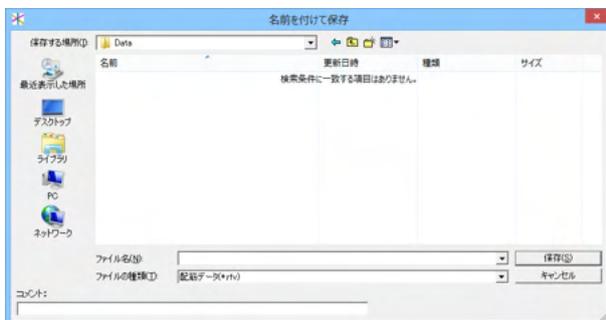
※保存されるデータファイルは、入力データファイル (\*\*\*.F7J) と図面データファイル (\*\*\*.PSX) です。図面データが生成されていない場合は、入力データファイルのみ保存します。

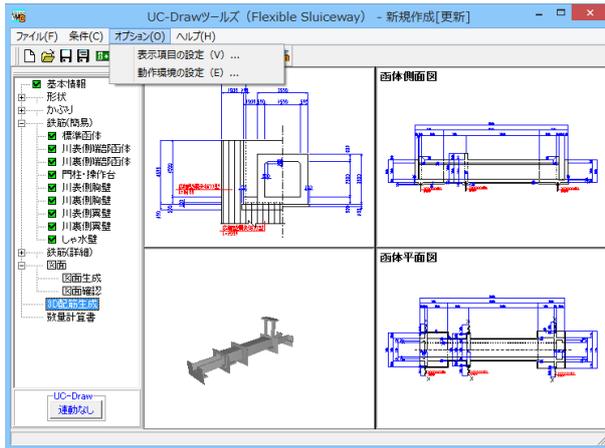
### ◆ファイル | 上書き保存

現在作業中の入力データと図面データを現在のファイル名称で上書き保存 (更新) します。一度も保存されていないデータを保存する場合は、「名前を付けて保存」と同様の操作になります。

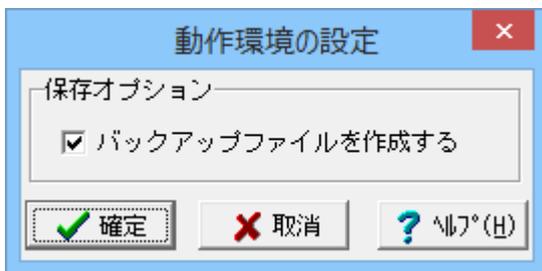
※保存されるデータファイルは、入力データファイル (\*\*\*.F7J) と図面データファイル (\*\*\*.PSX) です。

図面データが生成されていない場合は、入力データファイルのみ保存します。





※メニュー「オプション」－「動作環境の設定」で、入力データおよび図面データを同じ名称のファイルに上書き保存する場合に、バックアップファイルを作成するかしないかを指定することができます。  
 作成する場合は、チェックボックスをチェックしてください。  
 なお、チェックした場合に作成されるバックアップファイルの拡張子は、入力データファイルの場合は「\*.F7F~」、図面データファイルの場合は「\*.PSX~」となります。  
 バックアップファイルは、拡張子の「~（チルダ）」を削除することで本プログラムでの読み込みが可能です。



## 第3章 Q&A

### 1 UC-Drawツールズ「共通」

#### 1. 図面作図条件

Q1-1-1 各部の配力筋の継ぎ手(ラップ)位置の変更は可能でしょうか？

A1-1-1 配力筋のラップ位置の変更は、「条件-図面作図条件-鉄筋基準値-基準値1」の「継手長」「鉄筋最大長」の値を調整し、図面生成を行ってください。

Q1-1-2 図面作図条件におけるレイヤ属性の「線色」を変更したい。

A1-1-2 「図面作図条件-レイヤ属性」画面のレイヤに対する「線色」につきましては、各基準にて示されていますので変更することはできません。このレイヤに対する「線色」は、例えば「図面作図条件-線属性-外形線-線色」の項目で「レイヤ値」と設定されている場合に外形線を作図する際に使用(レイヤ属性で示された線色で作図)します。従いまして、「図面作図条件-線属性-外形線-線色」に「レイヤ値以外の目的の色」を使用したい場合には、「図面作図条件-線属性-外形線-線色」に「レイヤ値以外の目的の色」を設定してください。

Q1-1-3 「鉄筋基準値」-「基準値2」タブを修正しましたが加工図とリンクされていません。

A1-1-3 画面の値を変更しただけでは図面に反映されませんので、データ修正後は再度図面生成を実行してください。また、図面作図条件を変更する場合は、「確定」で終了し、必ずデータを登録してください。

Q1-1-4 鉄筋曲げ長が主鉄筋曲げと組立筋曲げがありますが、どちらも同じ曲げ加工になりますので修正できないでしょうか。

A1-1-4 「基準値(K)」-「図面作図条件(Z)」の「計算基準」ボタンで表示される計算基準画面の「鉄筋基準値」-「基準値2」タブで、主鉄筋および組立筋の曲げ半径、曲げ長を設定できますので、その画面で調整し図面生成を行ってください。

Q1-1-5 加工図を「曲げ作図あり」として作図を行いたい。

A1-1-5 「基準値(K)」-「図面作図条件(Z)」の「計算基準」ボタンで表示される計算基準画面の「鉄筋基準値」-「基準値2」タブで、主鉄筋および組立筋の曲げ半径、曲げ長を設定できますので、その画面で調整し図面生成を行ってください。

Q1-1-6 引き出し線と鉄筋加工の円の大きさを変更したい。

A1-1-6 鉄筋記号を囲む円の大きさを変更するには、メニューの「条件」-「図面作図条件」の「線属性」-「引出線」-「X文字属性」にて「文字高さ」と「文字幅」を調整してください。現状では「条件」-「図面作図条件」-「線属性」-「引出線」-「X文字属性」の「文字高さ」と「文字幅」で指定されたサイズを円の大きさとしております。

Q1-1-7 図面生成実行すると「継ぎ手位置エラー」という表示が出たのち、「材料計算:鉄筋記号[\*]の材料計算でエラーが発生しました」という表示が出て図面が生成できない。

A1-1-7 鉄筋最大長による鉄筋継ぎ手が曲げ部に生じた場合に上記エラーを表示しています。この場合、「条件-図面作図条件-計算基準」の鉄筋最大長を調整して図面生成を行ってください。

Q1-1-8 側面図の断面矢視(矢印+番号)を大きくしたい。

A1-1-8 「条件-図面作図条件-文字属性」の「矢視文字」のサイズ(高、幅)を調整してください。

Q1-1-9 寸法線の乗算記号を変えたい。

A1-1-9 「条件-図面作図条件-線属性」画面で乗算記号を変更してください。

Q1-1-10 鉄筋表の「合計」の文字サイズを大きくしたい。

A1-1-10 「条件-図面作図条件-図形属性」の鉄筋表の項目漢字と同じサイズとしています。

**Q1-1-11 フレア溶接の枠線を大きく出来ないか？**

A1-1-11 フレア溶接の表は、メニューの「条件-図面作図条件」で表示される「作図条件」ダイアログの「図形属性-寸法表」で変更することが出来ます。

**Q1-1-12 文字が縮尺を変えても大きくなっていません。**

A1-1-12 文字サイズは、縮尺によらず、図面作図条件画面の各画面の「文字属性」の値に従いますので、各画面にて目的の文字サイズを入力し、図面生成を行ってください。

- ・引出線の文字サイズ
  - 1) メインメニューから「条件-図面作図条件-線属性-引出線」ダイアログを開く
  - 2) 丸文字のサイズを「X文字属性」で変更する。
- ・寸法線の文字サイズ
  - 1) メインメニューから「条件-図面作図条件-線属性-寸法線」ダイアログを開く
  - 2) 「文字属性」ボタンを押下、文字サイズを変更する。
- ・鉄筋表の文字サイズ
  - 1) メインメニューから「条件-図面作図条件-図形属性-鉄筋表」ダイアログを開く
  - 2) 「文字属性」ボタンを押下、文字サイズを変更する。

**Q1-1-13 「図面枠線のマージン」の入力場所がわからない。**

A1-1-13 下記で変更することができますので、変更後に図面作成を実行してください。

- ・図面枠線のマージン  
「条件-図面作図条件」-「図面属性-図面枠線」

**Q1-1-14 配筋筋の重ね継手長は30D以上となっていますが35D以上に変更できますか？**

A1-1-14 「条件-図面作図条件-計算基準-基準値1」画面の継ぎ手長を目的の長さに調整して、図面生成を行ってください。

**Q1-1-15 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図したい。**

A1-1-15 「条件-図面作図条件-計算基準-止め・まるめ」画面で、寸法値の止め（小数点1位止め、mm止め）を選択して下さい。

**Q1-1-16 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図した際、部材配置の合計寸法値と配置幅寸法値が一致しない場合がある。**

A1-1-16 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図した際、各寸法値を「mm」単位で表示しますので、各寸法値によっては、お問合せの現象が生じます。

<小数1位単位>

部材配置寸法 (  $99.5 + 4 * 250.0 = 1000.0 + 100.5$  ) ……表示合計: 1200.0

部材配置幅 ( 1200.0 )

<mm単位>

部材配置寸法 (  $100 + 4 * 250 = 1000 + 101$  ) ……表示合計: 1201

部材配置幅 ( 1200 )

この現象を回避する（表示合計値を合わせる）には、部材配置位置を調整してください。

**Q1-1-17 図面の表題欄（タイトル版）を作図しないようにできないか？**

A1-1-17 以下の設定により、表題欄（タイトル版）の無い図面を生成することができます。

- ・「条件-図面作図条件-図面属性」画面を開く
- ・「タイトル版-作図位置」の枠線からの離れ寸法（右端、下端）に「0」を入力
- ・「確定」で「図面作図条件」画面を閉じ、図面生成を実行

**Q1-1-18 以前に設定した「図面作図条件」は、どこに保存されているか知りたい。**

A1-1-18 設定された「図面作図条件」は、下記の作業領域（ファイルの場所）の図面作図条件ファイル「UC\_SAKUZU.SZJ」に保存されています。

- ・「図面作図条件」画面を開く。
- ・「他製品の作図条件(SZJ)読み込み」ボタンを押下する。
- ・「ファイルを開く」画面の「ファイルの場所」に保存されています。

**Q1-1-19 作図するフォントを変更するには？**

- A1-1-19 以下の設定により、作図するフォントを変更できます。
- ・一括で変更
    1. 「条件-図面作図条件-レイヤ」画面を開く
    2. 「各要素に以下のフォントを設定」をチェック状態にして、「フォント」を選択し「確定」する
    3. 「図面生成」を実行する
  - ・個別に変更
    1. 「条件-図面作図条件-図形属性・線属性・文字属性」画面を開く
    2. 変更したい文字情報のフォントを変更し「確定」する
    3. 「図面生成」を実行する

**Q1-1-20 生成する図面のレイヤ名称をライフサイクルに応じて変更することができますか？**

- A1-1-20 以下の操作でライフサイクルに応じたレイヤ名称に変更することができます。
- ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」画面を開く
  - ・「主任主体区分」を目的のライフサイクル (測量:S、設計:D、施工:C、維持管理:M) に変更する
- ※レイヤ名称の先頭文字がライフサイクルとなります。(例: 構造物外形線レイヤ D-STR)

**1-2. 図面確認**

**Q1-2-1 図面生成を行い、編集画面において「引出編集」を行う場合、引出を移動させると参照点(矢印の先)も一緒にずれてしまふ。数値と下線のみ移動は可能か？**

- A1-2-1 引出線は、引出線の表示部(鉄筋記号・数値が作図された線)の中央の□をマウスで左クリックし、マウスを移動することで引出線の移動を行うことができますが、「Ctrl」キーを押しているか否かで以下のように移動状態が変力変わりますので、ご確認ください。
- 「Ctrl」キーを押している時 : 矢印など引出線の全体を移動
  - 「Ctrl」キーを押していない時 : □部のある表示部のみ移動

**Q1-2-2 文字をゴシック体でDWG・DXF変換するとビックフォントになる。**

- A1-2-2 DWG・DXF出力時のファイルバージョンを変更することで改善できます。
- ・「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力-設定」画面を開く
  - ・「ファイルバージョン」・・・「Release12」以外にする。

**Q1-2-3 図面枠内の工事名、施工箇所等の名称変更、又当社オリジナルの作成方法はありますか？**

- A1-2-3 図面枠内の工事名、施工箇所等の名称変更につきましては、本プログラムでは入力・作図できませんが、「UC-Draw」のライセンスをお持ちの場合は下記の手順でオリジナルの表題欄を作成し「UC-Drawツールズ(Pile)」で使用することができます。
- 表題欄作成1
1. 「UC-Draw」のメニュー「オプション-表シンボル生成機能」を選択
  2. 「表シンボル生成機能」でオリジナルの表題欄を作成(新規または既存ファイルを編集)
    - <既存シンボルの編集例>
      - ・表シンボル生成機能で既存シンボル(UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.HDF)を読み込む
      - ・書式をオリジナルに編集(サイズ調整、会社名入力など)する
  3. 作成した表題欄を保存
- 表題欄作成2
1. 「UC-Draw」の図面上でオリジナルの表題欄を作成(新規または既存ファイルを編集)
    - <既存部品の編集例>
      - ・既存の表題欄部品(UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.SDF)を図面上に貼り付ける
        - ※「表示-シンボル貼り付けウインドウ」で既存部品を選択、貼り付ける。
      - ・書式をオリジナルに編集(サイズ調整、会社名加筆など)する
    - 2. メニュー「編集-部品登録」を選択し作成した表題欄を保存
      - ・例えば、UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.SDFに名前をつけて部品を登録する
- 上記表題欄を「UC-Drawツールズ(Pile)」で使用
1. 「UC-Drawツールズ(Pile)」のメニュー「条件-図面作図条件」を選択
  2. 「作図条件」の「図面属性」を選択
  3. 「図面属性」の「タイトル版」で「ファイル名称」の「参照」を選択
  4. 上記で作成したファイル(\*.HDFまたは\*.SDF)を選択
  5. 「図面属性」の「タイトル版」で「タイトル名称」を選択
  6. 「確定」で作図条件を終了
  7. 「図面-図面作成」で図面を再作成

- Q1-2-4** DWGへの変換時に「DWG・DXF出力の設定」-「DWG・DXF出力2」で「変換方法」を「ユーザー設定」にしてレイヤ名称を個別に指定して変換しているのですが、設定したレイヤ名称でDWGへ変換されません。
- A1-2-4** 「レイヤ名称」の「ユーザー設定」は、図面生成段階で「レイヤタイプ」が「UC-Draw」の場合の設定ですので、「レイヤタイプ」が「UC-Draw」タイプでない場合には使用していません。  
以下の方法で目的のレイヤ名称を設定して下さい。
- A)図面生成段階の「レイヤタイプ」をUC-Drawとする場合
- ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」画面を開く
  - ・「レイヤタイプ」を「UC-Draw」に変更する
  - ・「図面生成」を行い「DXF,DWG」出力を行う。
- B)図面生成段階で、目的の「基準」を設定（基準に従ったレイヤ名称付け）する場合
- ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」画面を開く
  - ・「レイヤタイプ」を目的の基準とする
  - ・「図面生成」を行い「DXF,DWG」出力を行う。
- Q1-2-5** DWG・DXF出力した場合、文字列が分解されて出力される。
- A1-2-5** 「図面確認-編集-出力」画面の「設定」画面内に「文字単位で出力するか」「文字列単位で出力するか」かの設定を準備していますので、目的に合わせた設定にして出力してください。
- Q1-2-6** 生成した図面をSXF形式（電子納品用図面形式）で出力したいが、OCF検定に合格しているか？
- A1-2-6** 生成した図面を「図面確認-編集-出力-SXF出力」画面にて「出力形式」から「P21形式」を選択し出力してください。  
この「図面確認」からのSXF出力機能は、一般社団法人OCFのOCF検定（自動製図）に合格し、認証を取得しています。
- Q1-2-7** 図面をAutoCAD形式（DXF、DWG）で出力した場合、引出線や加工図の鉄筋記号が○内に収まらない場合がある点を改善する方法はありませんか？
- A1-2-7** 「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力」画面の「設定」画面内に「丸文字内の文字補正」設定を準備していますので、目的に合わせた設定にして出力してください。
- ・「しない」・・・「鉄筋記号」を入力された文字サイズで作図します。（鉄筋記号が○内に収まらない場合があります。）
  - ・「する」・・・「鉄筋記号」の文字が○内に収まる文字サイズで作図します。
- Q1-2-8** 生成した図面を「UC-Draw」へ連動し編集したい。
- A1-2-8** 弊社の2次元汎用CAD「UC-Draw」がインストールされている場合、メイン画面左下の「UC-Draw」-「連動なし」ボタンを押し、表示されるダイアログで「UC-Drawへの連動を行う」を選択、確定することで、「UC-Draw」への連動が可能となります。  
「UC-Draw」では、連動された図面をUC-Drawの豊富な作図・編集・土木専用オプション（帯表、パラメトリックシンボル生成など）コマンドを使用し、効率よく編集することができます。
- Q1-2-9** 図面生成の際にエラーコード「0xc0150002」が表示され、図面が生成できない場合がある。
- A1-2-9** 製品のインストールフォルダ内に「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ」（vc redistrib\_x86.exe）を保存していますので、「vc redistrib\_x86.exe」を実行後、図面生成を行ってください。
- Q1-2-10** DWG・DXF出力した図面の寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値も自動変更されるようにする方法はありませんか？
- A1-2-10** 「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力」画面の「設定-寸法線の出力-詳細」ボタンをクリックすることで表示される「寸法線のDXF出力設定」ダイアログボックスで指定してください。
- ・「寸法が変更されても文字列は固定」を選択した場合  
寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値の文字列は変更されません。（寸法値は固定状態）
  - ・「寸法の編集に合わせて寸法値を変更」を選択した場合  
寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値の文字列も変更されます。
- なお、この設定の場合は、AutoCADで図面を開いた際に寸法線の文字列が自動で変更される場合がありますので、ご注意ください。

Q1-2-11 設定した線属性（線色、線幅）で、図面を印刷する方法はありませんか？

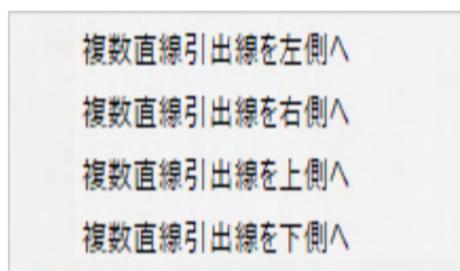
- A1-2-11 以下の操作で、設定した線属性（線色、線幅）の図面を印刷することができます。
- ・「図面確認-編集-設定-色設定」画面を開く
  - ・「ここで設定した線幅を出力時に使用する」チェックボックスのチェックを外す
  - ・「編集色→出力色」ボタンをクリックし出力色を設定する
  - ・「確定」ボタンをクリックし「色設定」画面を閉じる
  - ・「出力-図面印刷-ドライバ出力」から印刷する

Q1-2-12 図面確認画面で背景色を設定する方法はありませんか？

- A1-2-12 以下の操作で、背景色を設定することができます。
- ・「図面確認-編集-設定-色設定」画面を開く
  - ・「背景色-背景編集色」の「色」枠内をクリックし「色の設定」画面を開く
  - ・「基本色」から背景色を設定し「OK」ボタンをクリックする
  - ・「確定」ボタンをクリックし「図面の色設定」画面を閉じる

Q1-2-13 図面確認画面の引出線編集時に、引出方向を簡単に変更する方法はありませんか？

- A1-2-13 「複数直線引出線」の引出方向を以下の操作で変更することができます。
- ・「図面確認-編集」画面で「引出編集」ボタンをクリックする。
  - ・「引出線」要素を選択（マウス左クリック）し、ポップアップメニューを表示（マウス右クリック）する。
  - ・ポップアップメニュー内から引出線の引出方向（左側、右側、上側、下側）を選択（マウス左クリック）する。



Q1-2-14 生成した図面をPDFファイルに出力することができますか？

- A1-2-14 以下の操作で、PDFファイルへ出力することができます。
- ・「図面確認-編集-出力-図面印刷-ドライバ出力」画面を開く
  - ・「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」チェックボックスにチェックを入れる
  - ・「設定」画面を開き「プリンター名」に仮想プリンター（例えば、Microsoft Print to PDF）を選択する
  - ・「用紙サイズ」「用紙の向き」を設定し「OK」ボタンをクリックして設定画面を閉じる
  - ・「確定」ボタンをクリックで出力を実行する

### 1-3. 他

Q1-3-1 「3D配筋CAD」への連動方法を教えてください。

- A1-3-1 弊社の「3D配筋CAD」がインストールされている場合、メイン画面左下の「3D配筋CAD」-「連動なし」ボタンを押して表示されるダイアログで「3D配筋CADへの連動を行う」を選択、確定することで、「3D配筋CAD」への連動が行われます。

Q1-3-2 「UC-Drawツールズ」で作成した図面を「UC-Draw」のファイル形式に出力し、「UC-Draw」で編集したい。（加工表、鉄筋重量表等）

- A1-3-2 図面生成した後、ファイルを保存していただければ、PSX形式のファイルは自動で作成されますので、そのファイルをUC-Drawで読み込むことで編集が可能となります。

Q1-3-3 製品が起動しない。

A1-3-3 以下の操作により改善したケースがございますので、以下の操作をお試しください。

「UC-Draw Tools Box culvert」の場合  
■「DrawBox」フォルダ名をリネーム  
製品を終了した状態で下記のフォルダ名「DrawBox」を変更し（例：DrawBox\_Old）、正常に起動するかご確認ください。  
※ "UUUUU" の部分は使用中のユーザー名に置き換えてください。  
C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawBox  
↓  
C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawBox\_Old

Q1-3-4 製品起動時にエラーメッセージが出て起動しない。

A1-3-4 以下の操作で改善される場合がございますので、お試しください。

1. 製品を閉じる。
2. 製品のインストールフォルダ内の「vcredist\_x86.exe」を実行する。  
※「vcredist\_x86.exe」とは「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ」です。  
※「vcredist\_x86.exe」を実行してパッケージのインストールを行ってください。
3. 製品が起動するかご確認ください。

Q1-3-5 「図面生成」-「はい」で生成を実行すると「減長計算エラー」が出てしまい図面生成ができないのですが、曲げのある鉄筋は作図できないのでしょうか？

A1-3-5 自動配筋によって生成された鉄筋の継手位置が、鉄筋長を正常に算出できない位置となっていましたので、メッセージを表示していました。

以下の操作で図面生成を行うことで解消されます。

- ・「鉄筋入力」画面を開く
- ・「鉄筋長」を調整して曲げの位置に継手が含まれないように変更し「確定」する
- ・「図面生成」を行う。

※「鉄筋情報」ボタンを押下して開かれる各鉄筋画面で鉄筋情報（記号・径・寸法・配置情報）を修正された場合は、「図面生成」時に表示される確認画面（入力情報に応じた鉄筋情報を生成した後に図面生成をおこないますか？）での設定を「いいえ」としてください。

Q1-3-6 鉄筋詳細情報で修正した内容が図面に反映されていない。

A1-3-6 図面生成ボタンを押下した時には、「入力情報に応じた鉄筋情報を生成した後に図面生成を行いますか？」というメッセージが表示されますが、このメッセージにおいて「はい」を選択した場合には、鉄筋情報を破棄し各入力画面の内容を反映した鉄筋情報を再生成し図面生成を行う仕様としております。

従いまして、鉄筋入力画面で鉄筋情報の調整を行われた場合は、図面生成確認メッセージ画面において「いいえ」を押下し、図面生成を行ってください。

また、鉄筋生成ボタンを押下した際にも、鉄筋入力画面で調整した鉄筋情報が破棄され、鉄筋情報を再生成する仕様としておりますので、ご注意ください。

Q1-3-7 「図面生成」から「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されない。

A1-3-7 「レイアウト確認・修正」ダイアログは前回閉じた際の表示位置を保存しています。マルチモニタからシングルモニタに変更されたとのことで、現在のモニタの範囲外にダイアログが表示されている可能性があります。

下記の方法で保存されている表示位置を修正してください。

- 「UC-Draw Tools Pile」の場合
1. 「UC-Draw ツールズ(Pile)」を終了
  2. 「エクスプローラ」を起動し以下のフォルダに移動  
C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawPile\_V120\12300  
・「UUUUU」はユーザー名  
・「12300」は製品バージョン

3. 「UCCADLayoutWindow.INI」を「メモ帳」で開く
4. 「LYO\_Window」の下にある「Top」「Left」の値を  
現在のモニタの解像度の範囲内表示に変更。

修正例

Top = 100

Left = 100

5. 「メモ帳」で「ファイル>上書き保存」を選択し閉じる
6. 「UC-Draw ツールズ(Pile)」を起動して「図面生成」-「レイアウト確認・修正」で「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されるかを確認

- Q1-3-8** 2枚の図面を1枚にまとめたい。
- A1-3-8 図面生成時に表示される「レイアウト確認・修正」画面での図形の図面間移動を使用して図形のレイアウトを編集してください。
- Q1-3-9** 新規インストールして「レイアウト確認・調整」画面が表示されない。
- A1-3-9 「条件-図面生成条件」画面で、「レイアウト確認・調整」を「する」に設定してください。
- Q1-3-10** レイアウトの調整をしたい。
- A1-3-10 「条件-図面生成条件」画面で、「レイアウト確認・調整」を「する」に設定してください。
- Q1-3-11** 以前登録したレイアウトを使用したい。
- A1-3-11 レイアウト調整画面で、以前登録した「レイアウトデータ名称」を選択して下さい。
- Q1-3-12** レイアウト調整画面でオフセット設定が表示されない。
- A1-3-12 レイアウト調整画面上で、右クリックからポップアップメニューを表示し、「レイアウト情報」にチェックをつけてください。
- Q1-3-13** レイアウト調整画面の「レイアウト情報」画面が表示されない。
- A1-3-13 レイアウト調整画面上で、右クリックからポップアップメニューを表示し、「レイアウト情報」にチェックをつけてください。
- Q1-3-14** 「UC-Drawツールズ」で、「CAD統合版」のデータを読んでも、「UC-Drawツールズ」では何も表示されない。
- A1-3-14 以下の操作を行い「CAD統合版」データを保存したデータを「UC-Drawツールズ」で読んでください。
- ・「擁壁の設計」で「計算確認」を行う。
  - ・「図面作成」ボタンを押下して、図面作成へ移行する
  - ・「図面作成-基本条件」画面を入力済（紫⇒緑表示）状態にする。
  - ・「ファイル」メニューから「擁壁の設計」データを保存する。
  - ・保存したデータを「UC-Drawツールズ」で読む
- Q1-3-15** 製品起動時に「アプリケーションを正しく起動できませんでした(0xc0150002)」のエラーが発生する。
- A1-3-15 製品のインストールフォルダ内の「vcredist\_x86.exe」を実行してパッケージのインストールを行って、製品を起動してください。

※Q&Aはホームページ (<https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-slouceqa.htm>) にも掲載しております

# UC-Draw<sup>®</sup>ツールズ Flexible Sluiceway (柔構造樋門) 操作ガイダンス

2024年 4月 第5版

発行元 株式会社フォーラムエイト  
〒108-6021 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟21F  
TEL 03-6894-1888

禁複製

## お問い合わせについて

本製品及び本書について、ご不明な点がございましたら、弊社、「サポート窓口」へお問い合わせ下さい。

なお、ホームページでは、Q&Aを掲載しております。こちらもご利用下さい。

<https://www.forum8.co.jp/faq/qa-index.htm>

ホームページ [www.forum8.co.jp](http://www.forum8.co.jp)

サポート窓口 [ic@forum8.co.jp](mailto:ic@forum8.co.jp)

FAX 0985-55-3027

# UC-Draw ツールズ Flexible Sluiceway (柔構造樋門)

操作ガイダンス

[www.forum8.co.jp](http://www.forum8.co.jp)

